



刑法註解

第三編



13
6469
3

刑法註解

第三編

昭和八年十一月十四日
鶴田乙丑氏贈

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ

謀殺ノ罪ト為シ死刑ニ處ス

本條豫メ謀テ人ヲ殺ストハ清律ノ註ニ依

レハ先ツ人ヲ殺スノ計ヲ設ケ後ニ人ヲ殺

スノ事ヲ行フ之ヲ謀殺ト謂フ謀ノ跡必ス

詭秘謀ノ故亦タ多端讐恨妒忌貪圖爭奪等

ノ情アリ或ハ諸ヲ心ニ謀リ或ハ諸ヲ人ニ

謀リ陰謀詭計ヲ詐為シ以テ之ヲ殺スカ如

シ云々ト掲ケタリ是レ專ラ謀殺ノ情ヲ解

キタル者ナリ又佛律ニ依レハ豫メ人ニ害

ヲ加ヘント謀リ又ハ人ノ來ルヲ待テ害ヲ
加ヘント為シ之ヲ殺シタル罪ヲ謀殺ノ罪
ト云フ預メ人ヲ害ヲ加ヘント謀リタルト
ハ害ヲ加フル前ニ其害ヲ加フ可キヲ
預定セシ人又ハ相會ス可キ人ノ身体ニ對
シ害ヲ加ヘン謀ルヲ云シ但シ其謀意或ル
景況ニ管シ又ハ或ル約定ニ管シタル時ト
雖モ亦全上ナリトス人ノ來ルヲ待テ害ヲ
加ヘント為ストハ一箇又ハ數箇ノ地ニ於
テ多少ノ時間人ノ來ルヲ待テ之ヲ殺サン
ト為シ又ハ暴行ヲ加ヘント為スヲ云フト
謀殺ノ解ヲ掲ケタリ佛律ノ文意明了ナラ
スト雖モ專ラ謀殺ノ狀ヲ謂フニ似タリ畢

竟謀殺ヲ行フ者二人以上ニ係ル時ハ其證
明白ナリ易シト雖モ一人ニテ謀殺スル時
ハ果シテ謀殺ナルヤ否頗ル明カニシ難キ
者トス何トナレハ其人ヲ殺スモ諸ヲ心ニ
ノミ謀テ他ニ其謀狀顯ハレサル時ハ他ヨ
リ諸ヲ心ニ謀リシ者ト認定スルヲ得可カ
ラサルヲ以テナリ故ニ今謀殺ヲ罪ヲ判セ
ントスル者ハ右ニ國ノ法ニ掲ケタル如ク
先ツ人ヲ殺スノ計ヲ設ケ後ニ人ヲ殺シタ
ルノ狀表面ニ顯着ナルニ非レハ容易ニ謀
殺ト為シ處断ス可カラサル者トス
第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタ
ル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

先ツ人ヲ殺スノ心ヲ生シ計リ毒物ヲ施用
スルニ出ル時ハ謀殺ノ一手段ニ歸スル者
トス且ツ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺スハ千思
万考ノ後チ初メテ之ヲ用フルニ至ルノ常
ニ然リトス果シテ然ル時ハ本条ヲ設ケサ
ルモ不可ナキニ似タリ然ルニ原來毒物ナ
ル者ハ之ヲ用ヒテ人ヲ殺サントスル時ハ
他事ヲ以テ人ヲ殺スヨリ其術ヲ施スノ頗
ル易キ者トス且ツ此禍ヒニ遇フ者モ其術
陰秘ニ出ルヲ以テ之ヲ避ルノ甚々難キ者
トス隨テ他事ヲ以テ人ヲ殺スヨリ此毒物
ヲ施用シテ人ヲ殺スハ其害最モ多キ者ト
ス故ニ豫先ノ謀リニ出ルニ非スシテ臨時

殺意ヲ起シ人ヲ殺スモ若シ毒物ヲ施用ス
ルニ至ル時ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス
ト特ニ本条ヲ設ケタル者ナリ又一步ヲ進
メ第三百七条ヲ引テ論スル時ハ該条ハ健
康ヲ害ス可キ物品ヲ施用スルニ係ルヲ以
テ殴打創傷ノ刑ニ照シ處断スト雖モ其施
用シタル物品毒物ニ係ル時ハ犯人ハ止タ
人ヲ疾苦セシムル為メ施用シタリト供述
ス可シト雖モ若シ之カ為メ人ノ死ニ至リ
タル時ハ人ノ心ノ真ニ人ヲ疾苦セシムル
ニ止リシヤ又人ヲ殺ス為メナリシヤ他ヨ
リ之ヲ測リ識ル可カラサルヲ以テ恐クハ
本条ニ依テ處断セサルヲ得サル可シ右ノ

如ク解シ來レハ豫先ノ謀リニ出テ、毒物ヲ施用シタル者ハ前条ニ因リ其刑名ヲ定ム可キカ如シト雖モ己ニ本条ヲ設ケ仍ホ其刑ニ輕重ナキヲ以テ假令豫先ノ謀リニ出ル者モ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ本条ニ依テ處断スルヲ可トス

第二百九十四條

故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者

ハ故意ノ罪ト為シ無期徒刑ニ處ス
故意ヲ以テ人ヲ殺スト謂フモ謀殺毒殺ト等シク人ヲ殺スノ意ヲ生シ人ヲ殺シタル者ナリ然ルニ謀殺ハ先ツ豫メ人ヲ殺サントスルノ心ヲ生シ種々ノ計策ヲ設ケ然ル後テ之ヲ行フ者トス毒殺モ亦前条ニ解シ

タル如ク十中テ九ハ豫シメ人ヲ殺サンヲ謀リ然レ後此術ヲ施ス者トス假令豫シテ且ツ人ヲ殺スト他事ヲ以テ殺スヨリ頗ル容易ナルヲ以テ特ニ一条ヲ設ケ本条ト之ヲ別異シタル者ナリ本条故意ヲ以テ人ヲ殺シタルトハ即チ前二条ノ所為トクシテ人ヲ殺シタル者ナリ故ニ本条ノ罪ハ二人以上同時ニ之ヲ犯スニ至ルヲアルモ是レ偶然ノ事ニシテ(若シ共ニ謀リ之ヲ犯ス時ハ謀殺本条ニ依ル)必ス一人一己ノ心ヨリ出テ、之ヲ犯スニ係ルヲ以テ其何ノ所為ヲ以テ人ヲ殺シタルヲ故意ヲ以テ人ヲ

殺シタル者ト為スト之ヲ解スルノ頗フル
困難ナル者トス故ニ本条ノ罪ハ實際ニ臨
ニ判官之ヲ鑑定スルニ非サレハ豫メ茲ニ
其解ヲ示スヲ得ス人ヲ毆打スルニ方リ一
人臨時殺意ヲ起シ忽然之ヲ殺スニ至ル者
ノ如キハ殊ニ然リトス之ヲ鑑定スルノ要
其之ヲ殺ス時故意ヲ以テシタルヤ否ノ情
状ヲ分別スルニ在リトス

第二百九十五條

支解折割其他慘刻ノ所為ヲ

以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

本条ニ掲ケタル者モ亦豫謀ノ事ナクシテ
人ヲ殺ス者トス豫謀ノ事ナクシテ人ヲ殺
スト雖モ其人ヲ殺スニ方リ先ツ人ノ肢体

ヲ支解折割シ其他慘刻ノ所為ヲ施シ之ヲ
殺スニ至ルヲ以テ特ニ此殘忍ノ所為ヲ惡
ニ死刑ニ處スルヲ定メタル者ナリ

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル

為メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、為メ人

ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

或ル重罪輕罪ヲ犯ス前及ヒ之ヲ犯ス時ニ
於テ其重罪輕罪ヲ犯スニ便利ヲ得ル為メ
又ハ已ニ或ル重罪輕罪ヲ犯シタル後其罪
ヲ免ル、為メ人ヲ故殺シタル者ハ假令豫
謀ノ事ナシト雖モ其公害ヲ為スト實ニ甚
シキ者トス前条ト等シク死刑ニ處スル所
以ナリ

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

本條ノ罪モ固ト人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致ス者ナルヲ以テ豫謀ノ事アレハ謀殺ヲ以テ論シ若シ其事ナキ時ハ故殺ヲ以テ論ス可キト固ヨリ當然ノ事トス然ルニ其詐稱誘導セラハ者ハ人ノ捕テ危害ノ處ニ陷ルニ非ス自カラ危害ノ地ニ陷リ死ニ至ル者ナルヲ以テ又或ハ本條ノ罪ハ謀故殺ニ非スト疑ヲ起ス者アルモ計ル可カラス是レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

誤殺ハ罪ハ本邦舊律並ニ清律ニ於テハ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ傍人ヲ殺ス者ハ謀殺故殺ヲ分タス故殺ヲ以テ論スト定メタリ佛律ニ於テハ其明文ナキニヨリ或ハ覺士ハ其殺サレタル人ハ之ヲ殺サントシタル者ノ目的ニ非サルヲ以テ罪ハ其目的ニ因テ生スト謂フ論理ニ據リ往々無罪ト論スル者アリト聞ケリ白耳義國并ニ英國ノ法ニ於テハ其明文ヲ掲ケタリ畢竟謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺スモ固ト人ヲ殺スノ心ヲ以テ人ヲ殺シタルニヨリ假令其殺サレ

シ者ハ目的外ノ人ニ係ルモ同シク人ヲ殺シタルヲ以テ本条仍ホ謀故殺ヲ以テ論スト定メタリ道理ニ適シタル法ト謂フ可シ

第二節 殴打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ殴打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

本條以下ノ罪タル固ト一時ノ忿争ニ起リ殴打創傷スル者ニシテ或ハ之ヲ癡篤疾及ヒ死ニ致スアリ又ハ殴打スルモ輕傷ニ止ルアリ又全ク傷ヲ為スニ至ラサルアリ一方ハ死ニ至リ一方ハ癡疾ニ止リ又一方ハ癡篤疾ニ至リ一方ハ輕傷ニ止ルアリ或ハ双方同一ノ創傷ヲ為スニ至ル丁アル等ニテ

其人ヲ殺サント欲シ又ハ癡篤疾ニ致サント欲シ殴打スル者ニ非ス但夕時ノ勢ニ因リ期セスレテ死ニ致シ或ハ癡篤疾及ヒ其他ノ傷ヲ為スニ至ル者ナリ故ニ人ヲ死ニ致シタル者モ其刑前節謀故殺ノ罪ニ比スレハ頗ル減降シタル者トス然ルニ兇ヲ禁シ暴ヲ止メ人命ヲ重ンセシムハ世間ニ於テ一日モ縦ニスヘカラサルヲ以テ何ノ國タルヲ問ハス殴打創傷ノ罪ハ嚴ニ之ヲ責罰セリ罰セリ殴打創傷ノ罪ハ嚴ニ之ヲ責罰スト雖モ右ニ解シタル如ク本條以下ノ罪ハ人ヲ殺サント欲シ又ハ癡篤疾ニ致サント欲シ之ヲ行フ者ニ非ス但時ノ勢ニヨリ期セスレ

刑部省 法律局

テ死及ヒ癢篤疾其他ノ傷ヲ為スニ至ル者
ナルヲ以テ其傷輕キ時ハ自カラ其害寡キ
ニヨリ復タ其傷ノ輕重ニ從ヒ的當スル所
ノ刑ヲ定メサル可カラサル者トス各國刑
法皆然リトス以下各条ニ於テ傷ノ輕重ニ
從ヒ其刑ヲ區別セリ餘ハ各條ニ就キ之ヲ
解明セントス

第三百條 人ヲ殴打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳
ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ断テ陰陽ヲ
毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セレメ篤疾ニ
致シタル者ハ輕懲役ニ處ス
其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其
他身體ヲ殘虧シ癢疾ニ致シタル者ハ二年以

上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
本條ハ人ヲ殴打創傷シテ篤疾癢疾ニ致シ
タル罪ヲ定メタル者トス即チ兩目ヲ瞎シ
兩耳ヲ聾シ兩肢ヲ折ル等ノ事ヲ為ス者ヲ
篤疾ニ致シタル者トシ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾
シ一肢ヲ折ル等ノ事ヲ為シタル者ヲ癢疾
ニ致シタル者トシ其刑ヲ區別セリ此篤疾
癢疾ノ區別ハ舊刑法ト肯テ異ナルナレト
雖モ舊法ニ於テハ旧患アル者ヲ殴テ例ヘ
ハ一目ノ人ヲ殴テ其一目ヲ瞎シタル者ハ
現ニ加ヘタル所為ハ癢疾ニ致スノ所為ニ
止ルモ仍ホ兩目ヲ瞎シタル者ト等シク其
刑ヲ科セス然ルニ本條ハ其所為癢疾ヲ為

スニ止ル者ハ例ヘハ一目ノ人ヲ毆テ其目
ヲ瞎スモ癢疾ニ致シタル以テ論ス可キ者
トス何トナレハ旧患アルヲ毆テ因テ篤疾
ニ致スト謂フヲ篤疾ニ致スノ部中ニ掲
ケサレハナリ又本條清律ノ如ク二事以上
ヲ損スト謂フ事ヲ掲ケサルヲ以テ一人ニ
對シ其一肢ヲ折リ一目ヲ瞎スノミナラス
一肢ヲ折リ一目ヲ瞎シ仍ホ一耳ヲ聾スル
ニ至ルモ癢疾ヲ以テ論セサルヲ得スト謂
フ者アリ然ルニ本條ノ文意ニ就テ之ヲ考
フル時ハ兩肢兩目一肢一目ト記載セシト
雖モ必スシモ兩肢ヲ折リ又ハ兩目ヲ瞎ス
ニ限ラス二事共ニ損スル時ハ篤疾ニ致シ

タルヲ以テ論ス可キト思考セリ何トナ
レハ本條後項ハ一事ヲ損シタル時之ヲ罰
スル刑ニシテ二事以上ヲ損シタル時ノ刑
ニ非サレハナリ猶ホ識者ノ鑑定ヲ仰カン
トス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時
間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ営ムヲ能ハサルニ
至ラシメタル者ハ一年以上三年以上ノ重禁
錮ニ處ス
其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シ
タル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處

ス

本條ハ前條ニ記載シタル以下ノ輕傷ヲ為シタル者ヲ罰スル法トス其輕傷ノ中ニ於テモ又數種ノ輕重アル可キ者トス故ニ其傷ノ為メ疾病ニ罹ルノ日數又ハ職業ヲ営ムヲ能ハサルノ日數長キ者ハ短キ者ヨリ自カラ其傷ノ重キナル可キヲ以テ此疾病ニ罹ル時間并ニ職業ヲ営ムヲ能ハサル時間ノ長短ニヨリ其刑ヲ輕重シタル者ナリ然ルニ人ニ老壯強弱アリテ其疾病ノ時間傷ノ輕重ニ從ハスレテ殊ニ長キニ及フ者アリ又急ニ平癒ニ及フ者アリ且ツ頗フル健康ニシテ其傷重キモ疾病ト謂フニ至ラ

サル者アル可シト雖モ法律ハ總テノ人々ニ就テ一々其健康不健康ヲ計リ其輕重ヲ區別スルヲ得ス故ニ苟モ其傷ノ為メ休業スルニ至ル者ハ本條第一項第二項ニ依リ其疾病休業ノ時間ヲ計テ處断セサルヲ得ス

茲ニ此疾病休業ノ時間ヲ計テ犯者ヲ處分スルニ就キ一ノ難事アリ即チ傷ヲ被ムル者ノ其傷ノ癒ルヲ待テ處断セントスル乎又本條ノ罪ヲ犯ス者アル時ハ鑿師ヲレテ豫メ幾日ヲ經ル時ハ平癒ニ至ルト之ヲ鑑定セシメ然ル後チ其鑑定書ニ依テ之ヲ處断セントスル乎一事トス本刑法此等ノ

細目ハ記載セスト雖モ恐クハ鑿師ノ鑑定
ニ依リ之ヲ處断スルニ至ルナル可シ何ト
ナレハ微々タル傷ヲ為シタル者ノ其傷癒
ルニ至ル迄空シク裁判ヲ延引スルハ大ニ
公私ノ不便ヲ生スルニ至ルヲ以テナリ
本條ニ記載シタル者ノ外其人ヲ殴打シテ
創傷ヲ為サ、ル者ハ第四百二十五條ニ依
リ處断スル者トス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ殴打創傷シ休業癆
篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シ
タル刑ニ照シ各一等ヲ加フ其前數條ニ記載シ
本條ハ佛國刑法第三百十條ノ如ク豫メ人
ヲ殴打創傷セント計リ然ル後テ殴打創傷

スル者ノ罪ヲ定メタル者ナリ本條豫メ謀
ルト謂フモ止テ殴打創傷スルヲ謀ル者
ニシテ豫メ人ヲ死及ヒ癆篤疾等ニ致サン
ト謀テ殴打スル者ニ非ス故ニ本條ハ但テ
豫謀ノ一事ヲ懲ラヌ為メ前數條ノ刑ニ一
等ヲ加ヘテ處断スル者トス
第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ
又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カルニ為メ人ヲ殴
打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
本條ノ罪モ第二百九十六條ト同シク他ノ
重罪輕罪ヲ成就センカ為メ犯スニ係ル者
ナルヲ以テ其公害ヲ為スヲ甚シキニヨリ
普通ノ殴打創傷ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ處断ス

ル者トス

第三百四條

毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタ

ル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

本刑法第二百九十八條ニ於テ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論スト定メタルヲ以テ本条ニ於テモ此論理ヲ推シ及ホレ人ヲ毆打スルニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ直キニ其人ヲ毆打創傷シタル刑ヲ科スル丁ニ定メタル者ナリ

第三百五條

二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタ

ル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ

輕重ヲ知ル丁能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照

シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラズ

本刑法總則ニ於テハ二人以上共ニ一罪ヲ

犯シタル時其犯人皆同等ノ身分ナル時ハ

同等ノ刑ヲ科スルヲ正犯ヲ罰スル通法ト

ス然ルニ人ヲ毆打創傷スル罪ハ一時ノ忿

争ヨリ起ル者ニシテ時ノ勢カヒニヨリ人々

期ス可カラサル傷ヲ成スニ至ル者ナリ例

ヘハ甲ハ毆テ人ノ兩目ヲ瞎スモ乙ハ一手

若クハ一定ニ鎖少ノ傷ヲ成スニ止マリ又甲

ハ致命ノ傷ヲ成シ人ヲ死ニ致スモ乙ハ一

肢ヲ折ルニ止マル等ノ事アリ又假令豫メ

謀テ毆打スルモ同一ノ傷ヲ成スハ稀有ノ

事ニシテ必ス共謀人中重傷ヲ成ス者ト輕傷ヲ成ス者ト又全ク傷ヲ成サ、ル者トノ事ヲ生スル者トス故ニ此數人共ニ人ヲ毆打創傷スル者ヲ總則ニ照シ同等ノ刑ヲ科スル時ハ事實ニ的當セサル刑ヲ受クル者アルニ至ル可シ即チ輕傷ヲ成シタル者ヲ重傷ヲ成シタル者ト等シク處断スルハ頗フル苛酷ニ涉ル者トス故ニ二人以上ニテ人ヲ毆打創傷シタル者ハ總則ト其例ヲ異ニシ各手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從ヒ各自ニ其刑ヲ科スト特ニ本條ヲ設ケタル者ナリ歐洲各國ノ法ニ於テハ此特別法ナシト雖モ本邦旧律并ニ清律ニ於テハ關毆ノ

刑罰書卷之四

罪ニハ此別法ヲ設ケタリ甚タ事情ニ的ニタル法ト謂フ可シ
右ニ解シタル如ク二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ各手ヲ下シ傷ヲ成シタル其傷ノ輕重ニ從ヒ各自ニ刑ヲ科スト雖モ若シ共毆シテ何人ノ此重傷ヲ成シ又何人ノ此輕傷ヲ成シタリト其重傷并ニ輕傷ヲ成シタル人ノ知レサル時ハ論理ニ依リ之ヲ處分セント欲セハ皆重傷ノ刑ニ依テ科断セサルヲ得ス然ルニ此共犯中皆重傷ヲ成シタルニ非ス止タ其重傷輕傷ヲ成シタル人ヲ知ルヲ得サルヲ以テ重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減スト定メタルハ亦道理ニ的ニ

刑罰書卷之四

タル法ト謂フ可シ然リト雖モ若シ教唆者
アル時ハ此ノ傷固ト教唆ニ因テ致スニ係
ル者ナルヲ以テ教唆者ハ減等ヲ用ヒサル者トス
第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當
リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サ
シメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一
等ヲ減ス

前條ハ數人皆傷ヲ成シタル者ヲ罰スル法
トス然ルニ數人共ニ人ヲ毆打スルニ方レ
ハ自カラ手ヲ下スニ非スト雖モ傍ニ在リ
幫助シテ傷ヲ成サシムルコトアル可キ者ト
ス本條ハ即チ幫助シテ傷ヲ成サシメタル
者ヲ罰スル法トス幫助シテ傷ヲ成サシム

ル者ハ其幫助ヲ為スハ惡ム可シト雖モ自
カラ手ヲ下シ傷ヲ成スニ非サレハ亦大ニ
怒ス可キ所ノ者アリ故ニ本條傷ヲ成シタ
ル者ハ一等ヲ減スト定メタル者ナリ
若シ幫助シテ傷ヲ成サシムル者教唆者ニ
係ル時ハ前條ニ依テ處断シ減等ヲ用ヒサ
ル者トス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ
人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷
スルノ例ニ照シテ處断ス
本條ニ記載シタル者ハ其人ヲ殺サントシ
テ健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用スルニ非ス
止タ人ヲ疾苦セシムル為メ此等ノ物品ヲ

施用スル者トス故ニ若シ之レカ為メ人ノ
疾病死傷ニ至ル時ハ豫メ謀テ殴打創傷シ
タル刑ノ權衡ニ照シ處断スル者トス
本條健康ヲ害ス可キ物品トハ人ヲ死ニ致
ス可キ毒物ニ非サルコト知ル可シ若シ死ニ
致ス可キ毒物ニ係リ之レカ為メ人ヲ死ニ
致シタル時ハ第二百九十三條ニ依ラサル
ヲ得サル可シ何トナレハ本條毒物ト記載
セスシテ特ニ健康ヲ害ス可キ物品ト記載
シタレハナリ

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱
誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾病死傷ニ致シ、父
ル者ハ殴打創傷ヲ以テ論ス

本條モ亦人ヲ殺サントシテ詐稱誘導シテ
危害ニ陥ル、者ニ非ス但其人ヲ困苦窮迫
セシムル等ノ意ヲ挾シテ犯ス所ノ者トス
故ニ其詐稱誘導セラレ危害ニ陥リタル者
疾病死傷ニ至リタル時ハ殴打創傷シテ疾
病死傷ニ致シタル刑ニ照シテ處断スル者
トス
本條人ヲ殺スノ意ニ非ス云々ト記載セシ
ト雖モ舊法ニ掲クル所ノ戲ニ因テ人ヲ殺
傷シタル者ハ本條ヲ以テ論ス可カラサル
者トス何トナレハ戲ハ固ト惡意ヲ挾ムニ
非ス本條ハ惡意ヲ挾ミ犯ス所ノ者ナレハ
ナリ

第三節

殺傷ニ関スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受ルニ因リ
直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其
罪ヲ宥恕ス但不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ
招キタル者ハ此限ニ在ラス

本條暴行トハ力ヲ以テ人ノ身體ニ對シ非
理ノ兇害ヲ加フル者ヲ謂フ此場合ニ臨ミ
直チニ怒ヲ發シ暴行人ニ抵抗スルハ人々
ル者ノ免カレ、ヲ得サル性情ニ出ル者ト
ス故ニ法律ニ於テモ此抵抗ヲ為スニ因リ
暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕セザ
ルヲ得サル所ノ者トス舊法ニ所謂鬪毆後
ニ手ヲ下シ理直ナル者トハ即チ是レナリ

此暴行人ヲ殺傷シタル罪ヲ減輕スル法ハ

西洋各國并ニ支那及ヒ本邦旧律ニ於テモ等シ
ク設ケ來ル所ノ者ニシテ甚タ道理ニ的シタル
法トス然ルニ已レ自カラ先ツ不正ノ所為ヲ為シ人ノ
暴行ヲ招キタル時ハ敵手ニ在リテハ反テ宥恕ヲ受
クルコトアルモ此暴行ヲ招キタル者ハ宥恕
スヘカラサルコト亦當然ノ事トス本條但以
下ノ文字ヲ加ヘタル所以ナリ
其暴行ノ強弱緩急ヲ考ヘ至當ノ減輕ヲ與
フルハ判官ノ思料ニ在ルヲ以テ本條ニ於
テハ外ニ冗長ノ解ヲ費サス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下ス
ノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕

スルコトヲ得

本條ハ前條ノ變例ヲ掲ケタル者ナリ即チ
互ニ怒リテ發シ暴行ヲ加フル者ニ抵抗シテ
創傷ヲ為スコニシテ其手ヲ下シ創傷ヲ成
シタル先後ヲ辨別スルヲ得サル時ノ処分
トス此時ニ臨ムハ双方被ムル所ノ傷ノ輕
重ヲ驗シテ各其刑ヲ科シ宥恕セサルヲ至
當ノ処分ト為スコキカ如シ然ルニ互ニ創
傷ヲ成スト謂フモ固ト互ヒニ怒ヲ發シ暴
行ヲ為スヲ抵拒スルニ出テ、創傷ヲ成スコ
至ル者ナルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケ各其罪
ヲ宥恕スルヲ得ルコトニ定メタル者ナリ

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所

於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者
其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタ
者ハ此限ニ在ラス

歐洲人中本條ノ罪ハ精神錯亂シテ犯スニ
係ルヲ以テ宥恕減輕ヲ與フト論スル者ア
リト聞ケリ然ルニ若シ妻ニ在テ夫、他婦
ト姦スルヲ覺知シ之ヲ殺傷シタル時宥
恕減輕ヲ與ヘサルハ其論通セサル者トス
何トナレハ妻ハ夫ヨリ精神錯亂シ易キ者
ナレハナリ又清律ノ註ニ依レハ本條ノ罪
ハ義憤ニ發スト解明セリ右ノ如ク種々ノ
説明アリト雖モ國ノ内外ヲ問ハス夫ニ宥
恕ヲ與ヘテ妻ニ之ヲ與ヘサルハ畢竟古來

ノ慣習ニ因テ然ル者トス慣習ハ即チ道理
ナルヲ以テ本條ヲ設ケタルモ亦此道理ニ
從ヲタル者ナル可シ

支那及ヒ本邦舊律ニ於テハ姦所ニ於テ姦
夫姦婦ヲ獲テ即時ニ殺死スル者ハ其擅殺

ノ罪ヲ免セリ本條本夫ニ宥恕減輕ハ與フ
ト雖モ其罪ヲ全ク免サ、ルハ道理ニ進ミ

タル法ト謂フ可シ右ニ解シタル如ク姦所
ニ於テ直チニ姦夫姦婦ヲ殺傷スルハ其罪

ヲ宥恕スト雖モ若シ本夫先ニ妻ノ姦通ヲ
縱容シタル者ハ後ニ其夫ト姦通スルヲ覺

知シ殺傷スルモ其罪ヲ宥恕セサル者トス
第三百十二條 晝間故ナク入、住居シメル姦

宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞セント
スル者ヲ防止スル為メ之ヲ殺傷シタル者ハ
其罪ヲ宥恕ス

本條ノ主眼ハ防止スル為メ云々ノ數字ニ
在リ故ニ其姦宅ニ入り門戸牆壁ヲ踰越損

壞セントスル者暴威ヲ振セ此等ノ所為ヲ為
シタル時ハ之ヲ殺傷スルモ其罪ヲ宥恕ス

ル者トス若シ然ラスシテ但口頭ヲ以テ之
ヲ制止スルヲ得キ時ニ際シ之ヲ擅殺ス

ル者ハ如キハ本條ノ宥恕ヲ與フルヲ得サ
ル、本條言外ノ意トス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可
キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

本條ハ即ケ總則ニ謂フ所ノ特別ノ宥恕減
輕ノ法トス總則ノ減輕ハ二等ニ止ルモ本
條ハ三等迄減輕スルコヲ許シタリ前數條
ノ罪ハ多ク減輕セサルヲ得サル事情アル
ヲ以テノ故ナリ

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ム
コヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ
自己ノ為メニシテ他人ノ為メニスルヲ分タス
其罪ヲ論セス但不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行
ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
凡人タル者ハ自己ノ身體生命ヲ愛シ併セ
テ他人ノ身體生命ヲ愛スルハ天性ニ出ル
者ニシテ他ヨリ之ヲ如何トモス可カラサ

ル者トス今茲ニ其最愛ノ身體生命ヲ害セ
ントスル者アリ之ヲ殺傷スルニ非レハ其
最愛ノ身體生命ヲ全スル能ハサル場合
ニ際シ其暴行人ヲ殺傷シタル時之ヲ罪ト
シ罰スルヲ得ル乎決シテ之ヲ罰スルヲ得
サル可シ何トナレハ人ノ身體生命ハ何人
ト雖モ故ナク之ヲ害ス可カラサル所ノ者
ナリ其害ス可カラサル身體生命ヲ害セラ
レサルカ為メ其之ヲ害セラレサル所為ヲ
為スハ人タル者ノ當然為ス可キ所ノ者ナ
レハナリ他人ノ身體生命ニ於テモ復タ然
リ之ヲ防衛スルハ當然為ス可キ所ノ者ト
ス本條其罪ヲ論セスト定タルハ頗ル道

理ニ的シタル者トス
然ルニ他人ノ身軀生命ヲ防衛スル為メ害
ヲ加フル者ヲ殺傷シタル時其人ノ自カラ
暴行ヲ招キタルハ知ルヲ得可カラスト
雖モ自カラ先ツ不正ノ所為ヲ為シ暴行ヲ
招キタル時其暴行人ヲ殺傷シタル時ハ本
條ノ惠典ヲ與ヘサル者トス
本條正當ニ防衛シ暴行人ヲ殺傷シタルト
謂フト第三百九條暴行ヲ受クルニ因リ直
チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタルト謂フ
ト兩條ノ文面ニ就テ之ヲ見ル時ハ其區別
判然シ難シト雖モ之ヲ事實ニ徵スレハ自
カラ其區別判然ナル可シ例ヘハカヲ按テ

胸腹ヲ刺サントシタル杖ヲ執テ毆打セ
ントシタルト又手足ヲ縛シ淵ニ投セント
シタルト頭髮ヲ捉テ地ニ倒サントシタル
者ノ如シ此等ノ暴行ヲ受クルニ臨ミ其暴行
人ヲ殺傷シタル時其何ノ所為ヲ施シタル
者ヲ殺傷シタルヲ正當防衛ト為シ又暴行
ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ殺傷シタ
ル者ト為スト判官實際ニ臨ミ少シク注意
スル時ハ喋々之ヲ辨スルヨリ寧口至當ノ
區別ヲ得ルニ至ル可シ

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムコヲ得サ
ルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
一財産ニ對シ放火其他暴行ヲ為ス者ヲ防止

スルニ出タル時
ニ盗犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十二條ハ本條ニ記載シタル者ノ如ク著シキ所為ヲ為スニ非ス故ニ之ヲ殺傷シタル者宥恕減輕ニ止ムルモ本條ニ記載シタル者ハ已ニ著シキ暴行ヲ為ス者トス且夜間ニ於テ故ナク人ノ住居ヲ侵入者ハ或ハ刺客姦人ナルモ知ル可カラス其危害實ニ計ル可カラサルヲ以テ之ヲ防止スル

ニ因テ已ムコトヲ得ス殺傷スルモ亦其罪ヲ論セサル者トス

第三百十六條

身體財産ヲ防衛スルニ出ルト

雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ下論罪ノ限ニ在ラズ但情状ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

前二条ニ記載シタル暴行ヲ為ス者モ其暴行ヲ為ス所為ニ於テ大ニ輕重緩急ノアル者ニシテ之ヲ殺傷スルニ於テ一概其罪ヲ論セストスルヲ得ス即チ本條ニ記載シタル如ク已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴

行人ニ加ヘ及ヒ危害己ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加フル等ハ是レ已レノ慮ヲ擅ニスル者ニシテ身體財產ヲ防衛スル正當ノ所置ニ非ス故ニ止メ其情狀ニ因リ宥減輕ヲ為スルアルノ外前二条ノ惠典ヲ與ヘサル者トス

第四節 過失殺傷ノ罪

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
舊法ニ於テ過失殺傷ト稱スルハ固ヨリ疎虞懈怠等ニ因テ殺傷スルコトヲモ含有スト雖モ耳目思慮ノ及ハサル所ニシテ人ヲ殺

傷シタル者モ仍ホ過失殺傷トシテ其罪ヲ處分セリ殊ニ清律ノ註ニ於テハ過失トハ耳目ノ及ハサル所思慮ノ到ラサル所ヲ謂フト明記セリ抑モ耳目思慮ノ及ハサル所ニシテ罪ヲ犯スニ至ル者ハ總則ニ所謂罪ヲ犯スニ意ナキノ所為ナリ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ因テ人ヲ死ニ致シタル者ト謂フモ又人ヲ死ニ致スノ意ナキノ明カナリ然ルニ此レハ是レ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルノ責メアリ耳目思慮ノ及ハサル所ノ者ハ初メヨリ責ム可キノ道理ナキ者トス故ニ舊法ニ於テ過失殺傷トシテ論シ來ル所ノ耳目思慮ノ及ハサ

ル所ニシテ人ヲ殺傷シタル者ハ本節ニ擬
スルヲ得ス若シ此等ノ事ノアルニ臨メハ
即チ總則第七十七條ニ依リ其罪ヲ論セサ
ルヲ至當ノ處分トス

本節ニ記載シタル者ハ右ニ解シタル如ク
疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セスシテ人
ヲ殺傷シタル者ニ係ルヲ以テ判官本節ニ
記載シタル罪ヲ處断スルニ臨メハ其要耳
目思慮ノ及ハサル所ニシテ殺傷スルニ至
リシヤ又ハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守
セスシテ殺傷スルニ至リシヤ如何ニ注意
スルニ在リトス

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癱篤疾

ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休
業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處ス
本二條ハ傷ノ輕重ニ因リ其刑ヲ輕重シタ
ル者ナリ法文明了ナルヲ以テ贅言ヲ加ヘ
ス

第五節 自殺ニ関スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ
囑託ヲ受ケテ自殺スノ為メニ手ヲ下シタル
者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ

補助ヲ為シタル者ハ一等ヲ減ス

英國并ニ魯亞國ニ於テハ自殺ノ罪アリ其刑財産ヲ官ニ没シ又ハ遺言書ノ効ヲ失ハシメ及ヒ宗門ノ禮式ヲ以テ埋葬スルトヲ許サハル等トス其他各國刑法ニ於テ自殺スル者ヲ罰スル法アルヲ聞カス本邦旧法ニ於テハ同死ヲ謀ル罪アリト雖モ抑モ自カラ死セントスル者ハ何ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルモ固ヨリ其効ナキ者ナリ且ツ自カラ好ンテ死セントスル者ヲ之ニ刑ヲ加ヘントスルモ道理ニ的セサル者トス然ルニ之ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺者ノ為メニ手ヲ下シ其他自殺ノ補助ヲ

為シテ自殺セシムル者ハ不問ニ措クヲ得ス何トナレハ此ノ教唆補助等ノアルカ為メ自殺スルニ至ル者アル可キヲ以テナリ且ツ假令自カラ死ヲ決シタル者ノ依頼ヲ受クルモ之ヲ補助シテ死ニ至ラシムルハ頗ル世ノ公益ヲ害スル者トス本條自殺者ハ之ヲ遂ケサルモ刑ヲ加ヘス教唆及ヒ補助ヲ為ス者ニ刑ヲ加フルハ右ニ解スル理由ニ因ルナル可シ

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シ

テ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス謀故殺ハ人ヲ殺サントスルノ意ヲ決シ之ヲ殺スニ至ルヲ以テ其惡意ヲ構ルヲ重ク

家ニ監禁ス可カラサル者トス是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ若シ餘ノ罪ヲ遂クルカ為メ本條ノ罪ヲ犯シ餘罪ノ重キ時ハ其重キ罪ニ從テ處断スト雖モ其未夕餘罪ヲ犯スニ至ラスレテ逮捕監禁ニ止ル者モ仍ホ本條ニ依テ處断ス可キ者トス

第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ殴打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條ハ擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁スル罪ヲ定メタル者ナリ本條ハ其監禁シタル者ニ對シ殴打拷責ヲ加ヘ又飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為ヲ施シタル者ヲ罰スル法トス故ニ其刑前條ニ數等ヲ加ヘタル者トス

第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

前條ノ罪ヲ犯ス者若シ謀故殺ノ所為ニ出テ之ヲ殺スニ至ル時ハ謀故殺ノ本條ニ因テ其罪ヲ論ス可シト雖モ前條ノ罪ヲ犯ス者ハ肯テ人ヲ殺サントスル意アルニ非ス一時ノ憤ヲ漏スカ為メ又ハ止夕人ヲ困苦セシムル等ニ出テ殴打拷責シ又ハ飲食衣

服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所為ヲ施シ之ニ因
テ人ヲ疾病死傷ニ致ス者ナルヲ以テ毆打
創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スル
者トス

第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ
際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタ
ル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
本條ハ即チ毆打拷責等ヲ加ヘ死傷ニ致シ
タル者ニ非スト雖モ其死傷ニ至リタルハ
固ト之ヲ監禁シタルニ由ルヲ以テ前條ト
同シク處斷スル者トス

第七節 脅迫ノ罪

第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人

ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル
者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘテ脅迫シ又ハ財産
ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者
ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

人ヲ脅迫スルハ言詞ヲ以テスルヲアリ又
匿名若クハ偽名ノ文書ヲ以テ為スヲアリ
此ノ罪モ亦止テ脅迫ノミニ止ラズ他ニ窺
望スル所アリテ犯ス所ノ者ノ如シ故ニ時
トシテ恐喝取財ト變シ幼者ヲ略取スルノ
罪ト變シ又ハ強姦ノ罪等ト變スルヲアル

可シト雖モ未タ此等ノ罪ノ未遂犯罪トシ
テ罰ス可キ範圍ニ入ラサル時ハ本條ニ依
テ處斷ス可キ者トス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯
シタル者ハ各一等ヲ加フ

兇器ヲ持テ脅迫スル時ハ一層恐怖ヲ益ス
ヲ以テ一等ヲ加ヘテ處斷スル者トス

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以
テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

親屬ニ害ヲ加ヘント脅迫スルモ恐怖セシ
ムル點ニ於テハ本人ニ對シ直チニ脅迫ス
ルト肯テ異ナルナシ本條前二條ト同シク
處斷スル所以ナリ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫

ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪
ヲ論ス

脅迫ヲ加フルモ此ノ脅迫ヲ恐れサル者ア
リ又人ニヨリ脅迫ノ言詞ヲ加フルモ更ニ
脅迫ト思ハサル者アル可シ故ニ脅迫ノ罪
ハ其脅迫ヲ受ケタル者ノ告訴又其脅迫ヲ
受ケタル者幼者ナル時ハ親屬ノ告訴ヲ待
テ其罪ヲ論スル者トス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ
以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重
禁錮ニ處ス

歐洲諸國墮胎ノ刑ヲ設ケサル國アルヲ聞カス又本邦旧法ニ於テモ墮胎ノ罪ヲ設ケタリ本刑法ニ於テハ旧法ニ比スレハ嚴ニ此罪ヲ罪スルヲ定メタル者トス是レ此罪ヲ嚴罰スルハ諸國ノ通法ナレハナリ

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ処ス

前條ハ婦女自カラ墮胎シタル時ノ罰ヲ示シタル者ナリ本條ハ術ヲ施シ墮胎セシムル者ノ罪ヲ定メタル者トス其所為前條ノ共犯ニ等シキヲ以テ前條ノ刑ニ照シ処斷

スル者トス之ニ因テ婦女ヲ死ニ致シタルモ固ト婦女ノ承諾ニ因リ墮胎ノ術ヲ施シ偶然死ニ至リタル者ナルヲ以テ三年以下ノ重禁錮ニ処スル者トス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥高前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

本條ニ記載シタル者ノ婦女ヲ墮胎セシムルハ通常人ノ之ヲ行フニ比スレハ頗ル此術ヲ施シ易キ者トス重キニ從ヒ責罰スルニ非レハ此弊害ヲ防止スルヲ難シ因テ前條ノ刑ニ各一等ヲ加ヘテ処斷スル者トス

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以

下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ即チ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシムル者ナルヲ以テ前數條ノ刑ニ數等重クシタル者ナリ若シ婦女ヲ教唆シテ墮胎セシムル時ハ本條ノ刑ニ處セス總則共犯ノ例ニ依リ婦女ノ坐ス可キ刑ニ照シ處斷スル者トス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス
本刑法第三百條ニ於テ人ヲ毆打創傷シテ瘡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ

重禁錮ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處スルヲニ定メタリ本條毆打其他暴行ヲ加ヘ墮胎ニ至ラシメタル者ヲ二年以上五年以下ノ重禁錮ト為シ墮胎セシムルノ意ニ出テ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ墮胎ニ至ラシメタル者ヲ輕懲役ニ處スト定メタルハ其權衡ヲ右ノ條ニ取リタル者ノ如シ頗フル的當ノ權衡ヲ得タル者トス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百三十一條ノ罪ハ固ト婦女ノ承諾ニ因リ墮胎ノ術ヲ施シ偶然死ニ致ス者ナリ

ヲ以テ三年ノ禁錮ニ止ムト雖モ前ニ條ノ
罪ハ婦女ノ承諾ナキノシテラズ威逼誑騙
シ又ハ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ墮胎ニ至ラ
シムル者ナルヲ以テ之ニ因テ婦女ヲ瘡篤
疾及ヒ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本
條ニ照シ重キニ從テ處斷スル者トス

第九節

幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條

八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シ

タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
自ラ生活スルヲ能ハサル老疾者ヲ遺棄
シタル者亦同シ

本條ニ記載シタル罪ハ之ヲ一讀スレハ殘
忍ノ所為ニ涉ル者ニシテ其刑輕キニ過ル

カ如シト雖モ其幼者老疾者ヲ遺棄スル者
ノ中ニ於テハ盲昧ニシテ事理ニ通セサル
者アリ然ラサルモ貧困ニシテ遺棄スル者
等アリテ一概殘忍視ス可カラサル所ノ者
アリ故ニ其刑一月以上一年以下ニ止メタ
ル者ナリ

然ルニ八歳以上ノ者ハ能ク父母親屬ノ住
所姓名ヲ語ルヲ得又能ク人ニ憐ヲ乞フヲ
得ルヲ以テ之ヲ遺棄スルモ本刑法其罪ヲ
定メサル者ナリ至當ノ事ト謂フ可シ老疾者
疾病者ニ於ケルモ亦然リ假令年老ヒタル
モ又疾病ニ罹ルモ自カラ生活スルヲ能ハ
サル所ノ者ニ非サレハ又其罪ヲ論セサル

者トス

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥聞無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

幼者老疾者ヲ遺棄スト雖モ寥聞無人ノ地ニ非サレハ人ノ視察ニ係ルヲ以テ必ス收養ヲ得可キ者トス然ルニ寥聞無人ノ地ニ遺棄スル者ハ人ノ之ヲ視察スルナキヲ以テ殆ント其生ヲ顧ミサル者ノ如シ殘忍ノ所為タル想フ可シ本條四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スル所以ナリ

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二条ノ罪ヲ犯シタル時ハ各

一等ヲ加フ

給料ヲ得テ幼者老疾者ヲ保養スル者ハ其保養ヲ託シタル者ニ對シ保養ノ義務ヲ盡サ、ルヲ得ヌ且ツ之ヲ託シタル者ヨリ一層厚ク之ヲ保養ス可キ者トス此義務アル者ニシテ之ヲ遺棄スルニ至ル時ハ重ク罰シテ之ヲ懲戒セサルヲ得ヌ本條前二条ノ刑ニ一等ヲ加ヘタル所以ナリ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

前數条ニ記載シタル罪ヲ犯ス者モ固ト其

幼者老疾者ヲ殺スノ意ニ出テ遺棄スル者
ニ非サルヲ以テ之ニ因テ癡篤疾及ヒ死ニ
致シタルモ謀故殺等ノ刑ニ引擬セサル者
トス然ルニ其所為一時ノ忿争等ニ因リ癡
篤疾及ヒ死ニ致シタル者ニ比スレハ更ニ
重キヲ以テ癡疾ニ致シタル者ハ輕懲役篤
疾ニ致シタル者ハ重懲役死ニ致シタル者
ハ有期徒刑ニ處スル者トス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ
地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ
知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者
ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶

助セス又ハ申告セサル者亦同シ

他人ノ所有地内ニ於テ遺棄セラレタル幼
者老疾者并ニ疾病ニ罹リ昏倒スル者アル
ヲ知リタル時之ヲ扶助セス又ハ官署ニ
申告セサルモ他人ノ所有地内ニ在ルヲ以
テ地主ニ於テ此等ノ處分ヲ為ス可キヲ以
テ本刑法之ヲ罰セサル者トス然リト雖モ
自己ノ所有地内ニ於テ此等ノ者ノアリタ
ル時之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル
ニ於テハ人ノ之ヲ收養スル者ナキヲ以テ
終ニ死ニ至ルモ計ル可カラサル者トス是
レ本条ヲ設ケ此等ノ處分ヲ為サ、ル者ヲ
罰スル所以ナリ

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本条以下幼者ヲ畧取誘拐スル者ヲ罰スル法トスカヲ以テスルヲ畧取ト謂ヒ甘言之ヲ誘ヒ携へ去ルヲ誘拐トス此等ノ字義ハ暫ク論セス次条ニ於テハ畧取誘拐ヲ別テニト為シ各其刑ヲ輕重シテ處分スルニ定メタリ本条畧取誘拐シテ自カラ之ヲ藏匿シ又ハ他人ニ交付スル者ヲ一律ニ處スルニ定メタルハ十二歳ニ滿サル幼者ハ

其志慮淺薄ニシテ欺罔シ易キヲ以テ之ヲ

誘拐スルニ於テモカラ以テ畧取スルト同レキ效ヲ生スニヨリ之ヲ罰スルニ於テモ亦一律ヲ以テスルニ定メタル者ナリ

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上ノ罰金ヲ附加ス

前条ハ十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取誘拐スルヲ以テ其略取誘拐ヲ別タス一律ニ處ス

ルヲニ定メタル者トス本条ニ記載シタル
幼者ハ已ニ十二歳ヲ過キタル者ナルヲ以
テ其志慮稍ヤ癡達シ甘言以テ之ヲ誘フ
前条ノ幼者ニ比スレハ難キ者トス且ツカ
ヲ以テ畧取スルモ前条ノ幼者ニ比スレハ
又自カテ難キ所ノ者アリ故ニ本条ニ於テ
ハ其略取スル者ハ一年以上三年以下ノ禁
錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ誘拐
ニ係ル時ハ右ニ解シタル如ク頗フル難キ
丁アルヲ以テ六月以上二年以下ノ禁錮ニ
圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スル丁ニ定
メタル者ナリ

第三百四十三條

略取誘拐シタル幼者ナル丁

ヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト為シ又ハ其他ノ名
稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二条ノ例ニ
照シ各一等ヲ減ス

本条ハ總則ニ掲クル所ノ附從ニ似タル者
ナリ然ルニ總則ニ掲クル所ノ附從ハ皆事
前ニ係リ本条ハ之ヲ收受スル事事後ニ在
ルヲ以テ總則掲クル所ノ附從ヲ以テ論ス
ルヲ得ス且ツ本条ノ罪ハ稍々附從ト格別
ナル所アルヲ以テ別ニ一條トナシ此所ニ
掲ケタル者ナリ然ルニ其刑ノ權衡ニ於テ
ハ略取誘拐シタル者ヨリ減降セサルヲ得
サルヲ以テ一等ヲ減シタル者トス

第三百四十四條

前數條ニ記載シタル罪ハ被

害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但
略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ為
シタル時ハ告訴ノ効ナシ

前數條ノ罪ハ誹毀姦淫等ト同シク其害タ
ル略取誘拐セララル者ノ一身ニ止リテ他
ニ波及スル所ノ者ニ非ス故ニ被害者ノ告
訴ヲ待テ其罪ヲ論スル者トス且ツ前數條
ノ罪ハ其害ヲ被ムル者皆幼者ナルヲ以テ
被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論
スト定メタル者ナリ

又前數條ノ罪ハ其略取誘拐シタル時間長
キニ涉ルヲ以テ終ニ婚姻ヲ為スニ至ル者
アル可キヲ慮リ其式ニ從テ婚姻ヲ為シタ

ル時ハ告訴ノ効ナシト定メタル者ノ如シ
然ルニ本條式ニ從テ婚姻シタル時ト謂フ
丁本邦未タ一定ノ式ナシト雖モ世間ノ慣
習ニ依レハ父母之ヲ諾シ媒酌ヲ設ケ婚姻
ノ禮ヲ畢ヘ親屬朋友ニ報知シ女ノ本籍ヲ
夫ノ籍ニ附スルヲ一般ニ婚姻ヲ為シタル
者トスルニ似タリ本條ニ記載シタル者能
ク此等ノ手順ヲ盡シ婚姻ヲ為ス丁ヲ得ル
ヤ否若シ本條ニ記載シタル式トハ父母ノ
承諾ヲ得ル丁媒酌ヲ設クル丁女ノ籍ヲ夫
ノ籍ニ附スル丁ニ非スレテ別ニ其式ヲ設
クルトセハ或ハ其式ニ從テ婚姻ヲ為ス丁
ヲ得可キモ現今ノ慣例ヲ以テ式トスル時

ハ恐クハ此式ニ從ヒ婚姻スルヲハ難カル
可シ若シ本條ハ其父母親屬ニ於テ一旦略
取誘拐シタル者ニ與ヘテ婚姻ヲ為サシメ
跡ニ於テ其畧取誘拐ヲ名トシ告訴スルモ
其效ナシト解スル時ハ其式ニ從テ云々ノ
事ハ又解スルヲ得可シト雖モ本條ノ主意
ハ恐クハ如此者ニ非ル可シ識者ノ鑑定ヲ
仰カントス

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取
誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ
處ス

外國人ニ交付スル時ハ其踪跡ヲ得ルヲ難
ク且ツ最モ憐ム可キ困苦ヲ被ムルニ至ル

者アル可キヲ以テ輕懲役ニ處スル者トス

第十一節 猥褻及淫重婚ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ

猥褻ノ所行ヲ為シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ
對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル
者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本刑法第二百五十八條ハ公然即チ人ノ目
ニ觸ル、場所ニ於テ行フ所ノ猥褻ニ限ル
ト雖モ本條ニ記載シタル猥褻ノ罪ハ否ラ
ス公然之ヲ行フモ亦人目ニ觸レサル場所
ニ於テ之ヲ行フモ其場所ヲ限ラス止夕十
二歳ニ滿サル幼者ニ對シ之ヲ行ヒ又十二

歳以上ノ者ニ對シ之ヲ行フモ暴行脅迫ノ
所為ヲ加ヘ之ヲ行フ者ナルヲ以テ其害頗
ル多キニヨリ第二百五十八條ノ刑ノ權衡
ニ依ラス頗ル其刑ヲ重クシテ處断スル者
トス

其十二歳以上ノ者ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ
之ヲ行フト十二歳未滿ノ者ニ對シ暴行脅
迫ヲ加ヘス之ヲ行フト其害相同シキヲ以
テ同刑ニ處スル者トス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ
暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ
二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以止
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ノ所為
ナクシテ窃カニ猥褻ノ所行ヲ加フルモ男
女年十二歳ニ滿ル時ハ斷然之ヲ拒ムノ心
己ニ生スル者ナリ故ニ本刑法其罪ヲ定メ
スト雖モ十二歳未滿ノ幼者ハ未タ其心生
セサルヲ以テ暴行脅迫ヲ加フルニ非サル
モ前條己ニ其罪ヲ定メタリ暴行脅迫ヲ以
テ此幼者ニ對シ猥褻ノ所行ヲ為スニ至ル
時ハ重ク罰シテ之ヲ懲戒セサルヲ得ス是
レ前條ニ倍シタル刑ヲ科スル丁ニ定メタ
ル所以ナリ

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シ
タル者ハ輕懲役ニ處ス

藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯
 乱セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス
 強姦ハ古ヨリ之ヲ嚴罰スル所ノ者ニシテ
 其何ノ所行ヲ以テ強姦ト為スト云フテ世
 人周ク知ル所ノ者ナルヲ以テ今茲ニ喋々
 之ヲ辨セス抑モ婦女其貞潔ヲ守リ節操ヲ
 謹ムノ心ハ甚タ隆ナル者ニシテ若シ一タヒ
 之ヲ姦汚スル時ハ痛恨シテ禁スル能ハサ
 ルニ至ル者トス是レ古ヨリ之ヲ嚴罰スル
 所ノ者ナリ其藥酒等ヲ用ヒテ昏睡セシメ
 又ハ精神ヲ錯乱セシメテ之ヲ姦淫スルハ
 其婦女固ト承諾ノ心ナキニヨリカヲ用ヒ
 テ姦淫スルト肯テ異ナル所ナシ是レ本條

強姦ヲ以テ論スル所以ナリ

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫
 シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者
 ハ重懲役ニ處ス

未タ十二歳ニ滿サル者ハ姦事ヲ承諾スル
 ノ能カナキ者ナリ故ニ此幼者ヲ姦淫スル
 者ハ十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ト
 同シク輕懲役ニ處シ若シ此幼者ヲ強姦ス
 ルニ至ル時ハ其所為最モ惡ム可キヲ以テ
 重懲役ニ處スル者トス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害
 者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 前數條ニ記載シタル罪モ其害一身ニ止ル

ヲ以テ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル者トス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス但強姦ニ因テ癆篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

前數條ノ罪ヲ犯スモ人ヲ死傷ニ致スノ意ナキヲ以テ其死傷ニ至リタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断スル者トス但シ強姦ハ其所為力ヲ用ヒ及ヒ藥酒等ヲ用フルニヨリ人ノ身体ヲ損傷シ易キ者トス且ツ其情最モ惡ム可キヲ以テ之ニ

因テ癆篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處スル者トス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

男女ヲ論セス年未タ十六歳ニ滿タサル者ハ姦情未タ充分發達セサルヲ以テ概シ不逞淳ニシテ淫欲ヲ縱ニスル等ノ情ナキ者ナリ然ルニ其淫行ヲ勸誘シテ媒合スル者アル時ハ之ニ因テ其不逞ノ行ヲ乱シ淫佚無頼ニ陥ル者トス是レ本條ヲ設ケ其媒合者

ヲ罰スル所以ナリ

第三百五十三條 有夫ノ婦其通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相共スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ其通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

婦ノ其通人ノ指稱ニ係ル者ハ之ヲ罰ス可カラス之ヲ罰シテ其弊害ヲ生スル旧法ニ於テ世人周ク知ル處ノ者トス故ニ旧法即チ新律綱領改定律例頒布ノ後ニ於テ人ノ指稱ニ係ル者ハ之ヲ論セスト云フ布告ヲ發シタルアリ本條亦舊法ニ倣ハス婦

ノ其通ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト定メタリ然ルニ本夫先ニ其其通ヲ縱容スル時ハ業已ニ其其通ヲ許シタル者ナリ後ニ之ヲ告訴スルモ其效ナキ者ト為ス所以ナリ

第三百五十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ為シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス本邦古ヨリニ妻ヲ娶ル者ナキヲ以テ本條ハ不用ニ屬スル者ノ如シ然ルニ西洋各國ノ刑法ニ於テ大抵本條ノ罪ヲ定メサル者ナシ畢竟本條ハ各國ノ法ニ習ヒ設ケタル者ノ如シ法文明了ナルヲ以テ贅言ヲ費サ

ス

第十二節

誣告及ヒ誹毀ノ罪

第三百五十五條

不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シ

タル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ

例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條

誣告ヲ為スト雖モ被告人ノ

推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル

時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條

誣告ニ因テ被告人刑ニ處セ

ラレタル時ハ第二百二十一條第二百二十二

條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

誣告ト偽證トハ其所為ヲ施スニ前後アル

ノミニシテ人ヲ害セントスル意ニ於テハ

背テ異ナル所ナキ者トス故ニ誣告シテ人

ヲ罪ニ陷レントシタル者及ヒ人ヲ罪ニ陷

レタル者ハ偽證シテ罪ニ陷レントシタル

者及ヒ罪ニ陷レタル者ト同シク處斷スル

者トス餘ハ偽證ノ條ニ解シタルヲ以テ茲

ニ之ヲ贅セス偽證ノ条ト參觀スルヲ可ト

ス

第三百五十八條

惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹

毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ

照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者八十

一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以

上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シ
テ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

本刑法第二篇第一百四十一条ハ官吏ノ職務
ニ對シ侮辱ヲ為シタル者ヲ罰スル法トス
故ニ其刑本條ノ刑ヨリ數等重クシタル者
ナリ本條ハ官吏人民ヲ分タス人ノ私事ヲ
誹毀スル者ヲ罰スル法トス抑モ人ニ惡事
醜行アリテ其惡事醜行ノ刑法ニ問フ可キ
者ナル時ハ何人ヲ論セス之ヲ告訴告発ス
ルヲ得ルヲ以テ此誹毀ニ依ラスト雖モ其
罪ヲ発スルヲ得ル者トス若シ其惡事醜行

ノ刑法ニ於テ罰セサル所ノ細事ニ係ル時
ハ假令道義ノ心ニ背ク所為ナルモ他ヨリ
之ヲ喋々誹毀スルヲ得サル者トス此レ自
カラ人間互相ノ平和ヲ保スルノ道ナレハ
ナリ故ニ人ノ惡事醜行ヲ摘発シテ之ヲ誹
毀スル者ハ事實ノ有無ヲ論セス本條ヲ以
テ其罪ヲ論スル者トス

官吏ノ職務ニ對シ侮辱スル者ハ其侮辱專
ラ公事ニ在リ且ツ官吏ノ職務ヲ行フ時ニ
該リ之ヲ侮辱スル者ハ形容若クハ言語ヲ
以テスルモ文書圖畫等ヲ公布シテ之ヲ侮
辱スルト殆ント同一ノ害ヲ生スルニヨリ
同一ノ刑ニ處スルト雖モ人ノ私事ヲ誹毀

スルハ演説ヲ以テ之ヲ為スヨリ文書圖畫
等ヲ公布シテ之ヲ為ス時ハ廣ク人民ノ視
聽ニ觸ル、ヲ以テ其榮譽ヲ害スルヲ更ニ
甚シキニ至ル者トス因テ文書圖畫等ヲ以
テ誹毀スル者ハ演説ヲ以テ誹毀スルヨリ
殆ント倍シタル刑ヲ科スルヲ定メタル
者ナリ

第三百五十九條

死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔
ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處断
スルヲ得ス

死者ヲ誹毀スル時モ亦自カラ其子孫ノ榮
譽ヲ害スルニ至ル者ナリ然ルニ其誹毀ヲ
受クル者ハ既ニ死去シタル者ナルニヨリ

若シ惡事醜行アリテ其惡事醜行ヲ摘発シ
テ公布スル時ハ其子孫ニ對シテハ榮譽ノ
害トナルヲナキニシモ非スト雖モ原來生
者ハ其將來ノ榮譽ヲ益セント企望スル者ナ
リ其將來ノ榮譽ヲ益サント企望スル者ニ
對シテ誹毀ヲ為ス時ハ之カ為メ自然ニ世
人ノ忌嫌ヲ来シ將來營生ノ道ヲ誤ルニ至
ル者アル可シト雖モ死者ニ對シ誹毀ヲ為
スモ此害ヲ來スヲナキ者トス故ニ死者ヲ
誹毀スル者ハ故ラニ誣罔シタルニ非レハ
其罪ヲ論スルヲ得サル者トス

第三百六十條

醫師藥高穩婆又ハ代言人辯護
人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ

委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏
告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三
月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事
實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス
他人ニ発露ス可カラサル陰私ニ係ルト雖
モ本條ニ記載シタル者ニ對シテハ之ヲ吐
露スル者アリ又疾病傷痍ノ治療ヲ託スル
時ハ其陰私ヲ吐露セサルヲ得サルコトアリ
故ニ本條ニ記載シタル者ノ其委託ヲ受ケ
タル事ニ因リ人ノ陰私ヲ知得シ之ヲ他人
ニ漏告スル時ハ其委託者ノ榮譽ヲ害スル
コト少クナラサル者トス是レ本條ヲ設ケタ

ル所以ナリ
本條身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ
因リ知得タル陰私云々ノ數字ニ注意セサ
ルヲ得ヌ即チ墮胎シタル後ニ於テ其療養
ヲ託セラレ因テ其墮胎ナルコトヲ知リ人ヲ
殺傷スルニ臨ミ傷ヲ受ケタル者ノ其傷ノ
治療ヲ託スルニ於テ人ヲ殺傷シタル者ト
ルコトヲ知ルノ類ニシテ若シ其委託ヲ爲ス
者犯罪者ニ係ル時ハ已ニ其罪ヲ犯シタル
後ニ於テ委託ヲ受ケ因テ知リ得タル所ノ
陰私トス若シ未タ墮胎セサル者ノ其墮胎
ヲ爲スコトヲ委託シ又ハ人ヲ毒殺セントス
ル者ノ毒藥調合ノ委託ヲ受ケタル時此等

ノ事ヲ未然ニ制止スル為メ之ヲ人ニ告ケ
又ハ官ニ告發スルモ決シテ本條ヲ以テ論
スル限ニ在ラス即チ本條ハ多クハ犯罪ノ
後ニ於テ委託ヲ受タル事ナルヲ以テ但
下ニ於テ裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳
述スル者ハ此限ニ在ラスト記載シ治罪法
ニ於テモ此等ノ者ノ委託ヲ受ケタルトニ
於テハ其証據ヲ陳述セサルニ其罪ヲ論セ
サルトニ定メタル所以ナリ

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被
害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
本節ニ記載シタル誹毀ノ罪モ害ヲ被ムル
者其一身及ヒ死者ノ親屬ニ止ルヲ以テ被

被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ
論スト定メタル者ナリ

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪
第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故

殺シタル者ハ死刑ニ處ス
其自殺ニ関スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ
加フ

子孫其祖父母父母ノ身体ニ對スル罪ヲ犯
ス時ハ何ノ國タルヲ問ハズ普通ノ者ニ對
シテ之ヲ犯スヨリ其刑ヲ重クシテ之ヲ罰
セリ是レ親子タル者ノ關係ヲ明カニシ倫
理ニ背逆スル者ヲ重責スル所以ナリ故ニ
本條之ヲ故殺スルモ亦死刑ニ處スルトニ

刑部省

定メタル者ナリ

自殺ハ之ヲ教唆スト謂フト雖モ自カラ死
ヲ決シテ死ニ至ル者ナリ若シ自死ニ意ナ
キ時ハ之ヲ教唆スルモ其効ヲ見ルヲ得サ
ル者トス且ツ自殺ヲ教唆補助スルハ謀故
殺ノ情無キヲ以テ假令祖父母父母ニ對シ
之ヲ教唆補助スルモ又止タ二等ヲ加ヘテ
處断スルコト定メタル者ナリ

第三百六十三條

子孫其祖父母父母ニ對シ毆

打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪
ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ
刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ
有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒

刑ニ必シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ必ス

普通ノ者ニ對シ毆打監禁脅迫等ノ所行ヲ

加ヘ之ヲ癡疾ニ致ス時ハ其刑五年ノ禁錮ニ

止ムル者トス其豫メ謀テ癡疾ニ致ス者モ

六年三月ノ禁錮ヨリ之ヲ加フルヲ得ス祖

父母父母ヲ癡疾ニ致ス者ハ本條ニ從ヒ二

等ヲ加ヘ處断スルモ輕罪ノ刑ハ加ヘテ七

年ヨリ上スヲ得可カラサルニヨリ別ニ其

刑ヲ設ケ之ヲ責罰スルニ非サレハ其權衡

ヲ得サル者トス且ツ普通ノ者ヲ遺棄シ因

テ癡疾ニ致シタル時業已ニ輕懲役ニ處ス

ルヲ以テ本條癡疾ニ致シタル者ハ有期徒

刑ニ處スト定メタル者ナリ癡疾ニ致シタ

ル者ヲ有期徒刑ニ處スルニ於テハ篤疾及
ヒ死ニ致シタル者ハ又其例ニ從ヒ重キ刑
ヲ科セサルヲ得ヌ無期徒刑并ニ死刑ニ處
スル所以ナリ

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣
食ヲ供給セヌ其他必要ナル奉養ヲ缺キタル
者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二
圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例
ニ同シ

普通ノ者ハ本條ニ記載シタル義務ナシト
雖モ子孫タル者ノ祖父母父母ニ對シテハ
本條ニ記載シタル義務アル者トス故ニ本

條ヲ設ケ特ニ之ヲ罰スルコトニ定メタル者
ナリ然ルニ其子孫事故アリテ之ヲ養フコ
能ハサル場合ニ際シ本條ノ義務ヲ盡スヲ
得サルコトアルモ此レハ是レ故意奉養ヲ缺
クニ非ス不幸ニシテ奉養ヲ缺クニ至ル者
ナルニヨリ本條ヲ以テ論スルヲ得ヌ是レ
自カテ本條衣食ヲ供給セヌ又ハ奉養ヲ缺
キタル者ト云フ文中ニ明カナル者トス
第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷
ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フル
コトヲ得ヌ但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在
ラス

特別ノ宥恕減輕トハ第三百九條以下特別

一 不論罪トハ第三百十四條、第三百十五條トス子孫タル者ハ祖父母、父母ニ對シテハ何事ヲ為スモ決シテ怒ヲ發ス可カラサル者ナリ又假令身體生命ニ對シ暴行ヲ加フルコアルモ之ヲ殺傷ス可カラサル者トス此レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ然ルニ其犯ス時祖父母、父母タルヲ知ラズ及ヒ總則第七十五條ニ記載シタル天災等ノ時ニ際シ避ク可カラサル危難ニ遇フ時ハ又自カラ本條ニ依ラズシテ普通ノ者ト等シク處分ス可キ者トス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條

人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト為シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

盜ノ名廣シ他人ノ所有物ヲ以テ己カ有ト為サシト欲シ之ヲ取ルヲ盜ト為ス己カ有ト為シト欲シ之ヲ取ルヲ盜ト為スト謂フト雖モ茲ニ又區別ス可キコアリ概シテ之ヲ謂フ時ハ等シク他人ノ所有物ヲ以テ之ヲ己カ有ト為ス者ナリ然ルニ初メ承諾ヲ得テ之ヲ有スル者ハ還サ、ルヲ得サル時ニ當リ之ヲ還サ、ルモ盜ト為スヲ得ス若シ欺罔ノ心ニ出テ承諾セシメタル時ハ其承諾ハ真ノ承諾ニ非サルヲ以テ之ヲ稱

シテ詐偽取財ト謂フ故ニ盗トハ更ニ所有者ハ承諾ナキ物ヲ以テ之ヲ己カ有ト為ス者ナリ舊法ニ所謂拘摸ナル者及ヒ初メ人ヲ騙瞞シ其知ラサルニ乘シテ之ヲ竊取スルモ皆之ヲ盗ト為ス竊トハ強ニ別ツノ名ニシテ人ニ對シ暴行脅迫等ノ所為ヲ加ヘス竊カニ之ヲ取ルヲ竊盗ト謂フ其刑ノ推衡ハ舊法ニ比スレハ大ニ輕シト雖モ舊法ハ贓物ノ多少ヲ計リ其刑ヲ輕重シタル編成ニシテ本刑法ハ贓物ノ多少ヲ計ラス但タ其所為ヲ罰スル編成ニ係ル者トス即チ舊法ト大ニ盜犯ヲ罰スル主意ヲ異ニシタル者ナリ且ツ之ヲ道理人情ニ揆

ルモ財産ニ對スル罪ハ人ノ身體生命ニ對スル罪ヨリ其刑ヲ輕クセサルヲ得サル所ノ者トス故ニ本刑法ニ於テハ舊法ニ於テ之ヲ重クシタルニ拘ハラヌ二月以上四年以下ノ禁錮ニ処スト定メタリ然リト雖モ判官實際ニ臨ニ盜犯ヲ判決スル時ハ贓物ノ多キ者ハ其少キ者ヨリ此ノ二月四年ノ刑期中ニ於テ必ス重キ所ニ從テ処断スルナル可シ

第三百六十七條

竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ処ス

水火震災其他不時ノ變ニ遇フ時ハ人各己

レハ財産ヲ看護スルニ不便ナルヲ以テ此
時ニ乘シ其財産ヲ竊取スル時ハ其害ヲ
為スコト平時ニ於テ之ヲ竊取スルヨリ頗
ル大ナル者トス是レ特ニ本條ヲ設ケタル
所以ナリ

第三百六十八條

門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ関キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

門戸牆壁ヲ踰越損壞シテ竊盜ヲ犯シ鎖鑰ヲ閉キテ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯ス時ハ假令平時ニ在リト雖モ是等ノ事ヲ為サスシテ犯ス者ニ比スレハ其害頗ル大ナル者ナリ因テ前條ト同シク処分スル者トス

第三百六十九條

二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

總テ罪ヲ犯スニ他物ニ對シ之ヲ犯スニ非ス自己一身ノ所為ヲ以テ罪トナルコト除クノ外二人以上ニテ之ヲ犯ス時ハ一人之ヲ犯スヨリ其害多キ者トス殊ニ竊盜ノ如キハ人數ノ多キニ從ヒ愈々其害ヲ益ス者トス本條二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フト定メタル所以ナリ

第三百七十條

兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ処ス

盜ノ罪タル其時ニヨリ其所為ノ變スル者
ニシテ強盜ヲ為サント謀リシ者モ或ハ變
シテ竊盜トナリ竊盜ヲ為サント企タル者
モ強盜トナルコアリテ其所為ノ變化スル
コ他罪ノ之ニ比ス可キ者ニ非ス本條兇器
ヲ携帶シテ竊盜ヲ犯シタル者ヲ輕懲役ニ
処スルハ其所為ニ於テハ等シク竊盜ナリ
ト雖モ強盜ニ變スルノ速カナルヲ慮リタ
ル所以ナル可シ故ニ本條ノ罪ハ人ノ住居
シタル邸宅ニ入り犯シタル時ニ限リタル
者トス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物ト
シテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ

者守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以
テ論ス

自己ノ所有物ハ其物ノ何所ニ在ルヲ論セ
ス之ヲ使用費耗スルニ於テ他人ニ害ヲ及
ホス者ニ非レハ他日之ヲ如何トモスル
能ハサル者ナリ即チ決シテ盜ナル名称ヲ
下ス可キ理由ノ生ヤサル者トス然リト雖
モ己ニ典物トシテ人ニ交付シ又ハ官署ノ
命令ニ因リ他人ヲシテ者守セシメタル時
之ヲ竊取スルニ於テハ固ト是レ真ノ盜ニ
非スト雖モ多少他人ニ害ヲ及ホス者ナリ
且ツ其所為盜ニ同シキヲ以テ竊盜ヲ以テ
論スルコトヲ定メタル者トス是レ盜罪ノ變

例ナリ

第三百七十三條 田野ニ於テ穀類菜果其他ノ
産物ヲ竊取シタル者ハ一月以上一年以下ノ
重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ
産物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ
生養シ若クハ營業ニ関スル産物ヲ竊取シタ
ル者ハ亦前條ニ同シ

田野山林川澤池沼湖海等ハ人ノ邸宅ト違
ヒ多クハ平常其首字ナキ者ナリ且ツ穀類
菜果竹木礦物魚鳥其他此等ノ場所ニ於テ
生スル人ノ營業ニ関スル産物ハ人ノ邸宅
ニ在ル所ノ他ノ物件ト違ヒ之ヲ竊取スルモ

其害甚シキニ至ル者ニ非ス因テ本二條ハ
普通ノ竊盜ノ刑ニ頗ル減降シタル刑ヲ科
スルコトニ定メタル者ナリ然ルニ此等ノ場
所ニ在ルモ産物ニ非スシテ營業ヲ為ス器
具物品及ヒ己ニ關鑿シテ鑄成シタル金銀
銅鐵并ニ穀類菜菓竹木等ノ己ニ伐林收獲
シテ直チニ需用スルコトヲ得可キ為メ工力
ヲ加ヘタル者及ヒ魚鳥ハ苔等ノ己ニ運搬
シテ用ニ供ス可キ為メ收聚ノ工ヲ施シタ
ル者ハ恐クハ本條ニ依ラヌシテ普通ノ竊
盜ヲ以テ論セサルヲ得サル可シ何トナレ
ハ己ニ工力ヲ加ヘ直チニ需用ニ供ス可キ
者トナル時ハ他ノ動産ト異ナルナキ性質

ヲ具フルニ至ル者ナレハナリ且ツ此等ノ
物品ハ固ト田野山林川澤池沼等ニ在ル可
キ者ト雖モ己ニ工カヲ加ヘテ人ノ需用ニ
供ス可キ物品ト為ル時ハ田野山林川澤池
沼等ニ置ク可キ者ニ非ス偶々此等ノ地ニ於
テ竊取セラルモ己ニ他ノ動産ト異ナル
ナキ物品トナル時ハ他ノ動産ハ何ノ所ニ
於テ之ヲ竊取スルキ其場所ノ異ナルニ因
テ其刑ヲ輕重セス等シク一律ニ処スルヲ
以テ此等ノ物品モ己ニ需用ニ供ス可キ物
品トナル時ハ又竊盜ト一律ニ処セサルヲ
得サルカ如シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ノ竊

取シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ
処ス
牧場ノ牛馬驢羊等ヲ竊取スルハ前條ノ物
品ヲ竊取スルヨリ概シテ竊取セラル者
ノ害ヲ被ムルコト多キ者トス故ニ本條其刑
ヲ重クシタル者ナリ
第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯
サシトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例
ニ照シテ処断ス
第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ
輕罪ノ刑ニ処スル者ハ六月以上二年以下ノ
監視ニ付ス

本二條ハ別ニ解明ヲ要セサルヲ以テ贅言

刑罰法草案審査局

ヲ加ヘス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ
若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

本邦舊法支那律并ニ各國刑法ニ於テ親屬互ニ財物ノ竊取スル者ハ其親屬ノ數ニ少異同アリト雖モ大概其罪ヲ論セサルトニ定メタリ蓋シ親屬ハ固ト互ニ相愛シ相養フ道ヲ共ニスル者ニシテ一家ノ財産ハ殆ト共^昔有^ル如ク見做シタル者ナル可シ且ツ

此親屬ノ罪ヲ互ニ相計護ヤシメ凡人ト同シク之ヲ罰スル時ハ終ニ一家ヲ全フスル能ハス一家己ニ全キ^レ能ハサレハ之レカ為メ一國ノ風俗ヲ壞敗セシムルニ至ル者トス故ニ本條ニ於テモ祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スル限ニ在ラスト定メタリ然ルニ他人ニシテ此親屬ト共ニ犯シ其財物ヲ分チタル者ハ右ニ解スル所ノ關係ナキヲ以テ竊盜ヲ以テ論スル者トス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財

物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス
前節ハ即チ他人ノ物ヲ竊取スル罪ヲ定メ
タル者ナリ本節ハ人ニ對シ暴行ヲ加ヘ又
ハ脅迫ヲ爲シテ財物ヲ強取スル罪ヲ定メ
タル者トス其他人ノ物ヲ取ルニ於テハ等
シク一ナリト雖モ暴行脅迫ノ所爲ヲ加ヘ
テ強取スル時ハ人之ヲ防止スルヲ知ルト
雖モ其所爲ヲ恐レ已ムヲ得スシテ與フル
者ニシテ其所行最モ惡ム可キ者ナリ且ツ
強盜ヲ行フ者ハ人ヲ殺傷スル意ナシト雖
モ動モスレハ輒チ人ヲ殺傷スルニ至ル者ナ
ルヲ以テ實ニ一般人民ノ害ト爲ルヲ放火
ニ次ク所ノ重キ罪トス故ニ本條一人ニシ

テ兇器ヲ携帶セス之ヲ犯スト雖モ仍ホ輕
懲役ニ處スル者トス

第三百七十九條

強盜左ニ記載シタル情狀ア

- ル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ
- 一二人以上共ニ犯シタル時
- 二兇器ヲ携帶シテ犯シタル時
- 強盜ヲ行フ者人ヲ恐怖セシムルコトニ人
上ナル時ハ一人之ヲ行フヨリ多シ兇器ヲ
携帶スル時ハ一人ト雖モ之ヲ携帶セサル
ヨリ多シ若シ二人以上共ニ犯ス時兇器ヲ
携帶スル者アル時ハ其人ヲ恐怖セシムル
コト頗ル甚シキ者トス本條此等ノ情狀アル
者ハ一個毎ニ一等ヲ加フト定メタル所

第三百八十條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

本刑法中人ヲ殺スニ意ナクシテ餘罪ヲ犯スニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ヲ死刑ニ處スルハ本条ヲ除ク外流車ヲ顛覆シ船舶ヲ覆没スル罪及ヒ祖父母父母ニ對スル罪ノ二罪ノミ其止タ人ヲ傷シタル者ヲ無期徒刑ニ處スルハ〔流車ヲ顛覆シ船舶ノ覆没スル罪ハ其顛没シタル罪重キヲ以テ傷シタル丁ヲ掲ケス〕僅ニ本条一条ノミ誠ニ強盗人ヲ殺傷スルノ惡ム可ク且ツ數々此罪

ヲ犯ス者アルノ恐ル可ク固ヨリ至重ノ刑ヲ科スルニ非サレハ一般人民ノ心ニ於テ安セサル所ノ者トス是レ本条人ヲ殺傷シタル者ヲ至重ノ刑ニ處スル所以ナリ

第三百八十一條 強盗婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

強盗本條ノ所為ヲ為ス者モ亦甚々惡ム可キ者トス其人ヲ殺スニ比スレハ稍々輕キヲ以テ無期徒刑ニ處スル者トス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク為テ臨時暴行脅迫ヲ為シタル者ハ強盗ヲ以テ論ス

本條ハ第三百七十條ニ於テ解明シタル如

ノ竊盜ノ強盜ニ變シタル者ナリ即チ初メ
竊カニ財ヲ得タルニ被害者ニ覺知セラレ
其取還ヲ拒ク為メ臨時暴行脅迫ヲ為シタ
ル者トス其初ヤ竊盜ノ所為ニ出ルト雖モ
財物ノ取還ヲ拒ク為メ暴行脅迫ヲ為メニ
至ル時ハ是レ實ニ強盜ニ異ナラサル者ナ
リ故ニ本條強盜ヲ以テ論スル者トス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ酔迷セシ
メ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ジ
輕懲役ニ処ス

本條ハ暴行脅迫ノ所為ヲ加ヘテ財物ヲ取
ルニ非スト雖モ豫メ其財ヲ得ンカ為メ人
ヲ酔迷セシメ財物ヲ得ル者ナルヲ以テ普

通ノ竊盜ノ比ス可キ者ニ非ス其情甚惡ム
可キ者ナリ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ処ス
ル所以ナリ

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ
戒輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ処スル者ハ六月以上
二年以下ノ監視ニ付ス
本節ニ記載シタル罪ヲ犯ス者ハ大ニ其後
來ヲ豫防セサルヲ得ス故ニ輕罪ノ刑ニ減
降スルモ仍ホ監視ニ付スル者トス

第三節 遺失物埋藏物ニ関スル罪
第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得
テ隱匿シ所有主ニ還付セズ又ハ官署ニ申告
セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ

処シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ処ス
他人ノ所有物ヲ以テ己ノ有ト為ス者ハ是
ヲ盗ト為シ前二節ニ於テ其罪ヲ定メタリ
遺失物流漂流物ノ如キハ自己ノ所有ニ非
スト雖モ其所有者ニ於テハ稍々其所有權
ヲ失フタル者トス故ニ其之ヲ拾得タル者
所有主ニ還付セヌ又ハ官署ニ申告セサル
モ盗ト等シテ処分スヘカラサル者ナリ然
リト雖モ之ヲ隠匿シテ所有主ニ還付セヌ
又ハ官署ニ申告セサル到底他人ノ所有物
ヲ以テ己レヲ利セントシタル者ナリ故ニ
本條三月以下ノ禁錮二十圓以下ノ罰金ニ
処スル者トス

第三百八十六條

他人ノ所有地内ニ於テ埋藏
物品ヲ掘得テ隠匿シタル者ハ亦前條同
シ
自己ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得
ルト雖モ官ニ申告シテ処分ヲ仰カサルヲ
得サル者ナリ況ンヤ他人ノ所有地内ニ於
テ埋藏物ヲ掘得ル時ハ其地主若クハ官ニ
申告セサルヲ得サルコト固ヨリ當然ノ義務
トス然ルニ之ヲ隠匿シテ地主ニ告ケヌ又
官ニ申告セサル者ハ畢竟己ヲ利セントス
ルニ外ナラサル者ナリ其情前條遺失ノ物
ヲ拾得テ之ヲ所有主還付セサルニ異アル
ナシ因テ前條同刑ニ処スル者トス

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

本刑法ニ於テハ親屬互ニ財物ヲ竊取スルモ其罪ヲ論セスト定メタリ本條ノ如キハ其罪ヲ論セスアルコト固ヨリ當然ノコトナリ他復解明ヲ要セス

第四節 家資分散ノ罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ処ス情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ為シタル者ハ一等ヲ戒ス

本條家資分散ノ際トハ現今行ハル、所ノ負債主ノ債主ニ對シ身代限ノ処分ヲ受ケントスル場合ヲ謂フ佛國商法ニ於テハ商人家資分散ヲ為スニ其詐偽ヲ分散人ナルト通常ノ分散人ナルトヲ區別シ審カニシヲ掲ケタリ其大畧ハ簿冊ヲ匿シ及ヒ財産並ニ人ニ貸シタル物ノ幾部ヲ匿シ又ハ公私ノ證書ニ虚偽ノ負債ヲ記入シタル者等ヲ詐欺ノ分散人トシ一身ノ費用過度ナル者又ハ利益ヲ萬一ニ僥倖シテ公債及ヒ商品ノ相場ヲ為シ許多ノ損失ヲ被リタル者及ヒ分散ヲ防カシ為メ不正ノ賣買ヲ為シ負債ヲ多クシタルノ類ヲ通常ノ分散人ト

セリ又其罪ハ刑法第四百二條ニ於テ之ヲ
定メタリ本條ハ即チ佛國高法ニ掲クル所
ノ詐偽ノ分散者ヲ罰スル法トス故ニ分散
ヲ為ス者本條ニ記載シタル如ク財産ヲ藏
匿脱漏シ又虚偽ノ負債ヲ増加スル等ノ所
為ヲ為シタルニ非サレハ本條ヲ以テ論ス
可カラサル者トス

本條第二項ハ殆ント附從ニ近キ者トス然
ルニ虚偽ノ契約ヲ承諾シ又ハ其媒从ヲ為
ス等ハ其所為自カラ一種ノ罪トス故ニ本
條ニ於テ特ニ此虚偽ノ契約ヲ承諾シ又ハ
其媒从ヲ為シタル罪ヲ定メタル者トス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏

匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人
又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害
シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
家資分散ノ際本條ノ所為ヲ為ス時ハ其情
惡ム可シト雖モ前條ニ比スレハ自カラ其
所為輕キヲ以テ其刑半ニ減降シタル者トス
第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物

ニ関スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物
若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ
罪ト為シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ
四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタ

ル者ハ偽造ノ各本条ニ照シ重キニ從テ処断
ス
本条ニ記載シタル罪ノ真盗ニ異ナル所ハ
人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書
類ヲ騙取シタル者ト記載セシト雖モ盗ハ
人ノ知ラサルニ乘レテ之ヲ取り又之ヲ知
ルト雖モ暴行脅迫ヲ加ヘ非理ニ強奪スル
者ニシテ被害者ニ於テハ決シテ之ヲ共フ
ルニ意ナキ者トス本条ハ否ラス欺罔恐喝
ヲ受ケタル者真ノ承諾ニ非スト雖モ其欺
罔恐喝ニ騙瞞セラレ多少之ヲ容スノ心ヲ
生シ之ヲ共フル者ナルヲ以テ竊盗ト之ヲ
別チタル者ナリ然リト雖モ被害者ノ損失

ヲ被タルトハ竊盗ニ比スレハ或ハ多キニ
至ル可シト雖モ其之ニ及ハサルト寡ナカ
ル可キ者トス故ニ禁錮ノ期限ハ竊盗ト之
ヲ同シクシタリト雖モ特ニ罰金ヲ加ヘタ
ル者ナリ
本條ノ罪ヲ犯ス者ハ多ク官私ノ文書ヲ偽
造及ヒ増減交換スルニ至ル者アル可シ然
ルニ官私ノ文書ヲ偽造及ヒ増減交換スル
時ハ假令其目的詐偽取財ニ有リト雖モ其
害タル輕キニ非サルヲ以テ偽造ノ各本條
ニ照シ重キニ從テ処断スル者トス
第三百九十一條 如者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精
神錯乱シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類

ヲ授典セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
本條ハ幼者又ハ精神錯乱シタル者ニ對シ
テ財物及ヒ証書類ヲ授典セシメタル者ヲ
罰スル法トス幼者ハ自カラ知慮淺薄ナル
者ナリ然ルニ本條特ニ知慮淺薄云々ト記
載シタルヲ以テ一般ノ幼者ヨリ財物及ヒ
証書類ヲ授典セシメタル者ハ本條ノ限リ
ニ在テサルコ知ル可シ即チ知慮ノ淺薄ナ
ル幼者ヨリ財物及ヒ証書類ヲ授典セシメ
タル時ニ在リトス又精神錯乱シタル者ハ
固ヨリ事物ノ是非善惡ヲ識別スルヲ得サ
ル者ナリ斯ノ是非善惡ヲ識別スルコ能ハ
サル者ニ財物若クハ証書類ヲ授典セシム

ルハ普通ノ者ヲ欺騙シテ授典セシムルヨ
リ易キ者トス本條詐偽取財ヲ以テ論スル
所以ナリ

第三百九十二條

物件ヲ販賣シ又ハ交換スル

ニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人
ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
本條モ亦詐偽取財ノ一術タルニ過キサル
者トス止メ其所為ノ前二條ニ異チルニヨ
リ特ニ一條ヲ設ケタル者トス

第三百九十三條

他人ノ動産不動産ヲ冒認シ

テ販賣交換シ又ハ抵當典物ト為シタル者ハ
詐欺取財ヲ以テ論ス
自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト為シタ

ルヲ欺隠シテ他人ニ賣典シ又ハ重ネテ抵當
典物ト為シタル者亦同シ。

本條亦詐偽ノ一術トス他人ノ動産不動産
ヲ冒認シテ自己ノ物ト為シ之ヲ人ニ販賣
シ若クハ他物ト交換シ又ハ抵當典物ト為
ス等ハ其所存主ノ在ル有ルヲ以テ之ヲ買
取シ及ヒ他物ト交換シ又ハ抵當典物ニ取
リ金穀ヲ貸典シタル者ヲ欺騙スル一術ト
為シタルニ過キス故ニ詐偽取財ヲ以テ論
スル者トス

不動産ヲ人ニ抵當ト為スハ債主ノ之ヲ承
諾スル時ハ假令幾人ニ之ヲ為スモ法律ノ
許ス所ニシテ民間ニ於テハ金穀融通ノ一

術ト為ス所ノ者ナリ然ルニ其債主ニ於テ
ハ先キニ之ヲ抵當トシテ金穀ヲ貸典シタ
ル者先取ノ持権ヲ有シ若シ其抵當ト為シ
タル者ノ其負債ヲ償フコト能ハサル時ハ他
ノ債主ニ先タテ其不動産ヲ糶賣シテ自己
ニ貸典シタル價額ヲ引去ル者トス故ニ幾
人ニ之ヲ抵當ト為スヲ得ルモ其抵當ト為
シ金穀ヲ借ル時ニ臨メハ已ニ抵當ト為
シタルコト有無ヲ一々債主ニ通知セサル
ヲ得サル者トス
其通知セサルヲ得サル者ヲ欺隠シテ之ヲ
人ニ賣典シ又ハ重ネテ抵當典物ト為シ財
物ヲ騙取スル時ハ其不動産自己ノ所有ニ

係ルト雖モ買主及ヒ債主ヲ騙購シテ財産ヲ取ルコトニ於テハ他術ヲ以テ之ヲ取ルニ異ナルナシ其一旦典物ト為シタル者ヲ欺隠シテ人ニ賣典シ又ハ重ネテ抵當典物ト為ス亦一様ノ術ニ出ズ様損害ヲ及ホス者ナリ是レ本條ヲ設ケテ是等ノ事ヲ為ス者ヲ詐偽取財ト同シク処断スル所以ナリ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ処ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所為アル者ハ詐欺取財

ヲ以テ論ス
受寄ノ財物及ヒ借用物并ニ典物等ハ擅ニ之ヲ費用ス可カラサルノミナラス之ヲ保存スルニ注意セサルヲ得又金額物件ノ委託ヲ受ケタル者ハ身分ノ如何ナルヲ問ハズ費消セサルコトニ注意セサルヲ得サル者トス是レ皆其人ヲ信シテ之ニ任シタル者ナレハナリ然ルニ此等ノ任アル者ニシテ其義務ニ背キ之ヲ費消スル時ハ其之ニ任シタル者ノ信ニ背キ損害ヲ及ホスノミナラス之ヨリ世間ノ信用ヲ狭クスル基ヲ開ク者ナリ是レ本條ヲ設ケ之ヲ罰スル所以ナリ然ルニ其任ヲ受ル者之ヲ任スル者

ヲ欺騙シ又ハ其物品ヲ拐帶シ其他詐欺ノ
所為ヲ以テ費消シタル時ハ其情悪ムヘキ
ヲ以テ詐偽取財ヲ以テ論スル者トス
第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官
署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者
ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資
分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八
條ノ例ニ照シテ處断ス

自己ノ所有物ハ其物ノ何タルヲ問ハス使
用費耗又ハ贈與販賣貯藏寄託スルモ他ヨ
リ之ヲ如何トモスルヲ得サル者トス然ル
ニ官権ヲ以テ之ヲ差押ヘタル物件ハ妄リ
ニ之ヲ使用販賣等ヲ為ス可カラサル者ト

ス何ソ況ンヤ竊カニ之ヲ藏匿脱漏スルニ
於テヲヤ之レ官権ヲ害スル者ニシテ合セ
テ他人ニ害ヲ及ホス者ナリ本條ヲ設ケテ
之ヲ罰スル所以ナリ家資分散ノ際ニ於テ
官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏スル
者ハ必ス詐偽ノ所為ニシテ人ヲ害スル意
ニ出タル者ナル可シ其未タ官署ノ差押ヲ
經サル前ニ於テモ家資分散ノ際其財産ヲ
藏匿脱漏スル者ハ己ニ第三百八十八條ニ
於テ嚴ニ其刑ヲ定メタリ故ニ本條ニ記載
シタル如ク官ヨリ差押タル物件ニ係ルモ
家資分散ノ際ニ於テ藏匿脱漏スル者ハ又
第三百八十八條ニ照シ處断ス可キ者トス

是レ本條特ニ但以下ノ數字ヲ加ヘタル所
以ナリ

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サ
ントシテ未夕遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ
照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ
タル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係
ル時ハ其罪ヲ論セス

本ニ條ハ別ニ解明ヲ要セスシテ明カナル
ヲ以テ贅言ヲ加ヘス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ
之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ為シ

タル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ
三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

盜ノ世間ニ行ハルハ畢竟之ヲ寄藏故買
スル者ノ有ルニ因テ然ル者ナリ若シ之ヲ
寄藏故買スル等ノ者ナキ時ハ盜ヲ為シテ
其用ヲ為サ、ルニヨリ自カラ盜ヲ減スル
ニ至ル者トス故ニ強竊盜ノ贓物ナルヲ
知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ寄藏
故買ノ牙保ヲ為ス者ハ自然ニ盜ヲ誘導ス
ルニ迫キ者トス是レ本條ヲ設ケテ之ヲ罰
スル所以ナリ其刑ノ權衡ハ竊盜ノ刑ヨリ
輕シト雖モ此等ノ事ヲ為ス者ハ多クハ不
正ノ利益ヲ得ル者ナルヲ以テ特ニ罰金ヲ

附加シタル者ナリ

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上
二年以下ノ監視ニ付ス

前條ノ罪ハ一二度ニ止ラスレテ多クハ常
ニ繼續シテ犯ス所ノ者トス因テ一旦此罪
ノ發覺シタル時ハ大ニ其後來ヲ豫防セサ
ルヲ得ス是レ本條ヲ設ケ監視ニ付スル所
以ナリ

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル
物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ
若クハ牙保ヲ為シタル者ハ十一日以上一年
以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

本條ハ詐偽取財其他ノ犯罪ニ關シタル物
件ト意味ノ廣キ文字ヲ以テ記載セシト雖
モ第二編第五百十二條ニ記載シタル罪證
ト為ル可キ物件ヲ隱匿スルト謂フト頗ル
其主意ヲ異ニシタル者ナリ即チ本條ハ罪
證ヲ隱匿スル意ニ非スレテ但夕前數條ニ
記載シタル犯罪ニ關スル物品ナルヲ知
テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ及ヒ寄藏故買
ノ牙保ヲ為スニ過キサル者トス前條ニ解
シタル如ク此等ノ事ヲ為ス者ハ斯ノ所為
ヲ為スニ於テ多ク不正ノ利益ヲ得ル者ナ
ルヲ以テ其之ヲ贈リ又ハ寄託シ及ヒ賣與
スル者ノ罪ノ輕重ニ關セス一體ニ本條ニ

依テ其罪ヲ處断スル者トス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ
燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

凡ソ斯ノ世ニ在テ人ノ害ト為ル所行ハ放
火ヲ以テ其第一トス之レカ為メ數万ノ財
産ヲ一時ニ灰燼シ且ツ數人ノ生命ヲ一朝
ニ戕害スルニ至ル者ナリ故ニ其目的人ヲ
殺サントスルニ非スレテ止テ財產ヲ燒燬
スルニ在ルモ至重ノ刑ヲ科スルニ非サレ
ハ後來之ニ倣フ者ヲ懲戒スルニ足ラヌ且
ツ人心ニ於テ甚タ安セサル所ノ者ナリ又
假令餘ノ罪ヲ犯ス為メ放火スルニ至ルト

雖モ放火ノ害タル右ニ解シタル如ク實ニ
甚シキ者ナルヲ以テ人ノ住居シタル家屋
ヲ燒燬スル者ハ死刑ニ處スル者トス
舊法ニ於テハ自己ノ宅舎及ヒ人ノ空間房
屋ヲ燒キ期セスレテ公廨倉庫及ヒ人ノ宅
舎ニ延燒スル者ハ自己ノ宅舎并ニ空間房
屋等ヲ燒ク者ヨリ頗ル其刑ヲ重クシタリ
本刑法ニ於テハ自己ノ家屋并ニ山林ノ竹
木田野ノ穀麥柴草ノ如キモ之ヲ燒燬スル
者ハ其罪ヲ定メタリト雖モ延テ他人ノ家
屋ヲ燒燬スルニ至ル時其刑ヲ重クセサル
ヲ以テ其權衡ヲ得スト難スル者アル可シ
ト雖モ固ト人ノ家屋ヲ燒ク目的ニ非スレ

テ期セス之ヲ燒燬ニ致ス者ハ重キニ從テ
處斷スルハ甚タ道理ニ適セサル者トス何
トナレハ其目的ナキ所為ニ於テハ其目的
ヲ以テ犯シタル者ト等シク處分ス可カラ
サルハ刑法ノ原則トスル所ノ者ナレハ十
リ故ニ自己ノ家屋并ニ山林ノ竹木田野ノ
穀麥ヲ燒燬シテ他人ノ家屋ニ延燒スルモ
其目的ノ人ノ家屋ヲ燒燬スルニ在ラサル者
ハ人ノ家屋ヲ燒クヲ以テ論スルヲ得ス然
ルニ本刑法ニ於テハ未遂犯罪ノ刑ヲ設ケ
テ其目的ノ遂ケサル者モ之ヲ罰スルニヨ
リ若シ人ノ家屋ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ
先ツ自己ノ家屋山林田野ノ竹木柴草ノ類

ニ放火シタル者ハ人ノ家屋ニ延燒セサル
モ仍ホ人ノ家屋ヲ燒燬セントシテ未タ遂
ケザルノ刑ニ照シテ處斷ス可キ者トス右
ノ理由ニヨリ本刑法ニ於テハ自己ノ家屋
其并ニ山林ノ竹木田野ノ穀類ノ如キ害ノ輕
重キ者ヲ燒燬スルニヨリ延テ他人ノ家屋等
ヲ燒燬ニ致スモ重キニ從テ處斷スル等ノ
事ヲ記載セサル者ナリ

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其
他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處
ス

本條ハ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物
ニ係ルヲ以テ一等ヲ降シ無期徒刑ニ處ス

ル者トス

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス
本條ニ記載シタル物件ヲ燒燬スルハ前二條ニ比スレハ其害輕キヲ以テ重懲役ニ處スル者トス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乘載セサル船舶瀛車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

人ヲ乘載シタル船舶瀛車ニ放火スル時ハ其人命ヲ害スルヲ入ノ住居シタル家屋ニ放火スルニ異ナルナシ故ニ死刑ニ處スル

者トス

其人ヲ乘載セサル船舶瀛車ノ類ハ人ノ家屋ト違ヒ自カラ一個ノ物件ニシテ人家稠密ノ場所ニ置ク者ニ非サレハ人ノ害トナルヲ入ノ住居セサル家屋ヨリモ仍ホ輕キ者トス故ニ本條人ヲ乘載セサル船舶瀛車ヲ燒燬スル者ハ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯藏スル屋舎ヲ燒燬スルト同シク重懲役ニ處スルヲ定メタル者ナリ

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ニ記載シタル物件ハ前數條ニ記載シ

タル物件ニ比スレハ之ニ放火スルモ其害
更ニ輕キ者トス故ニ其刑輕懲役ニ止メタ
ル者ナリ

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタ
ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
自己ノ家屋ニ放火スル者ハ法理ニ照セハ
其罪ヲ論スルヲ得サル者ノ如シ然ルニ放
火ノ事タル人ノ之ヲ畏懼スルノミナラス
其近傍ニ在ル者ヲ狼狽奔走セシメ又ハ財
産ヲ他所ニ運搬セシムル等多少他人ニ損
害ヲ及ホス者トス故ニ本條ヲ設ケテ自己
ノ家屋ニ放火スル者モ仍ホ之ヲ罰スル者
トス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
放火ノ罪ヲ犯ス者ハ其後來ヲ豫防ス可キ
ヲ辨ヲ待タスシテ明カナリ其減輕シテ輕
罪ノ刑ニ處スル者モ仍ホ監視ニ付スル者
トス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬
シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處
ス

失火ハ固ヨリ其心事ニ於テハ更ニ責ム可
キトナシト雖モ之カ為メ人ノ損害ヲ被ム
ルニ至ル者ナルヲ以テ其後來ヲ戒メ本條
ヲ設ケテ之ヲ罰スル所ノ者トス

第四百十條 火藥其他激発ス可キ物品又ハ煤
氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ
毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分
テ放火失火ノ例ニ照シテ處断ス

本條ノ所為ニヨリ人ノ家屋財産ヲ毀壞ス
ルモ放火失火ノ所為ニヨリ之ヲ燒燬スル
モ其人ニ損害ヲ及ホスニ至テハ更ニ異ナ
ル所ナシト雖モ但其損害ヲ及ホス所為ノ
異ナルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタル者ナリ

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞
シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ
無期徒刑ニ處ス

4

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂
失シタル者ハ重懲役ニ處ス

水ヲ決スルノ害タル火ヲ放ツカ如ク甚シ
キニ及フヲ寡ナシト雖モ堤防ヲ決潰シ水
閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失
スルニ至ル時ハ其害タル又甚タ重キ者ト
ス故ニ本條人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シ
タル者ハ無期徒刑ニ處スルヲ定メタル
者ナリ

其人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂
失スルハ人ノ生命ヲ害スル恐レ寡ナキヲ
以テ重懲役ニ處スル者トス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ノ毀壞シテ

刑部省 刑務局

田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

本條ハ家屋ニ非サル場所ニ係ルヲ以テ假令之ヲ荒廢スルニ至ルモ其人命ニ關スル恐レナキニヨリ輕懲役ニ處スル者トス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル為メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ從來民間ニ於テ數々アル所ノ自己ノ田畝ニ灌溉スル為メ他人ノ害タルヲ顧みス妄リニ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ

公共ノ水利ヲ妨害スル所ノ者ヲ罰スル法トス故ニ前數條ト等シク堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞スト記載スト雖モ前數條ニ記載シタル者ト頗ル其情ヲ異ニシタル者ナリ且ツ本條ノ所為ヲ為スモ他人ノ田畝ヲ荒廢スル等ノ事ナキヲ以テ二年以下ノ禁錮二十圓以下ノ罰金ニ處スル者トス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス
本條亦失火ト同シク他人ニ損害ヲ被ラシメタル者ヲ戒シムルニ過キサルヲ以テ失火ノ例ニ照シ處斷スル者トス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條

衝突其他ノ所為ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第二編第六十六條ニ記載シタル燈臺浮

標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示スル等ハ一般ノ船舶ノ往來ヲ妨害スル者トス故ニ第二編中ニ之ヲ記載セリ本條ニ記載シタル者ハ之ト其主意ヲ異ニセリ即チ目的ヲ定メ一個若クハ數個ノ船舶ヲ覆没セシムル為メ衝突其他ノ所為ヲ加フル者ニシテ直接ニ他人ノ財産ヲ損壞セシメントスル者ナリ故ニ本編中ニ之ヲ記載セリ然ルニ其船舶

ヲ覆没スルニ至ル時ハ之カ為メ人ノ害ヲ被ムルヲ第二編ニ記載スル所為ヲ為スニ

ヨリ覆没シタルト肯テ異ナルナキヲ以テ

人ノ死ニ至リタル時ハ兩條トモ同シク死刑ニ處シ船中死亡者ナキ時ハ無期徒刑ニ

處スル者トス

第四百十六條

前條ノ所為ヲ以テ人ヲ乘載セ

サル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス人ヲ乘載セサル船舶ハ之ヲ覆没スルモ前

條ニ比スレハ其害輕キヲ以テ輕懲役ニ處スル者トス

第十節

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條

人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條以下ノ罪モ必ス他ニ目的ノ在ル有リテ犯ス所ノ者ナル可シト雖モ既ニ本條以下ノ所為ヲ為ス時ハ他人ニ對シ損害ヲ及ホス者ナルヲ以テ(其目的タル罪ノ重キ時ハ重キニ從テ處斷スト雖モ)其目的ノ如何ヲ問ハス本條以下ノ刑ニ照シテ處斷ス可キ者トス

本條ニ記載シタル家屋其他ノ建造物ハ其

物ニヨリ大小ノ差アリ又毀壞ヲ為スニ於テモ大ニ輕重ノ等アル者ニシテ其物ト所為トノ大小輕重ノ相懸絶スルヲ本刑法中本條ノ上ニ出ル者ナシ其刑ノ範圍ヲ一月以上五年以下ノ禁錮ト定メタルハ此等ノヲテ處リタル者ナル可シ

本條ノ罪ヲ犯シ人ヲ死傷ニ致スモ固ヨリ人ヲ死傷ニ致ス意ニ非ス期セスレテ死傷ニ致ス者ナリト雖モ業已ニ其所為ノ頗ル暴劇ニ涉ル者ニシテ通常ノ疎虞解怠ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタルト同視ス可キ者ニ非ス因テ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルヲ定メタル者ナリ

刑罰法 第四百十七條 毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルヲ定メタル者ナリ

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾田畝ノ樊圍牧場ノ柵欄等ハ皆外部ノ附屬物ニ限ル故ニ之ヲ毀壞スルモ甚シキ害ヲ生スル者ニ非ス因テ止タ三月以下ノ禁錮ニ處シ又ハ單ニ二十圓以下ノ罰金ニ處スルヲ定メタル者トス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ニ處ス

前條ノ物品ハ之ヲ毀壞スルモ大抵其物品ニ限アリト雖モ稼穡竹木其他ノ植物ニ至テハ其物品ノ數ニ限リナキ者トス故ニ之ヲ毀損スル時ハ其害ヲ被ムル者前条ヨリ甚シキニ至ル者アリ且ツ需用ノ植物ハ園池ノ裝飾田畝ノ樊圍ニ比スレハ頗ル貴重ス可キ者ナリ然リト雖モ其稼穡竹木ヲ僅カニ毀損スルカ如キハ其害及テ前条ヨリ輕キヲアリ故ニ本条ノ刑ハ前条ヨリ止タ禁錮ノ長期ヲ加ヘ罰金ヲ二等重クシヨル者ナリ本条ノ罪モ禁錮ノミニ處スルモ又罰金ノミニ處スルモ妨ケナキ者トス

第四百二十條 土地ノ経界ヲ表シタル物件ヲ
毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以
下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

本條ニ記載シタル者モ外部ノ附属品タル
ニ過キスト雖モ田畝ノ樊圍等ト違ヒ自カ
ラ一種貴重ス可キ物件トス若シ之ヲ毀壞
移轉スル時ハ之カ為ノ損失ヲ被ムル者甚
シキニ至ル者ナリ且ツ土地ノ経界ヲ表ス
ル物件ハ假令疎末ノ者ヲ以テ為シタル時
ト雖モ竹木稼穡ヲ微シク毀損スルヨリ概
シテ其害ノ重キ者トス故ニ本條ハ禁錮ヲ
科スル上ニ猶ホ罰金ヲ附加スル者ナリ

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ
十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

凡ソ器物ニハ珍貴凡劣ノ等大小輕重ノ差
アリテ之ヲ毀棄スルモ更ニ害ヲ加ヘタリ
ト名稱ス可キニ至ラサル者アリテ一樣ニ
見做ス可カラスト雖モ珍貴ノ器物ヲ毀棄
スル時ハ被害者ノ損害寡ナカラサル者ト
ス故ニ本條其刑ノ權衡ヲ稼穡竹木等ヲ毀
損シタル者ト同シクシ十一日以上六月以
下ノ重禁錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰
金ニ處スルトニ定メタル者ナリ

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一

月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

牛馬ハ其物ニ限リアリト雖モ之ヲ殺害ス
ル時ハ被害者ノ損失多キニ及フ者ナリ故
ニ禁錮罰金ヲ併科スルコトニ定メタル者ト
ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家

畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

本条ノ罪ハ其害更ニ輕シ故ニ罰金ノミニニ
處シ且ツ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルコトニ定
メタル者ナリ

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書

類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下
ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

人ノ權利義務ニ關スル証書ハ其權利義務
ニ多少輕重ノ區別アリテ一樣ニ見做ス可
カラスト雖モ此權利義務ニ關スル證書ヲ
毀棄滅盡スルハ大抵財産ノ損失ヲ被ラシ
メントスル目的ニ出ル者ニシテ其意殆ン
ト詐偽取財ニ類スル者多シ故ニ本條其權
衡ヲ詐偽取財ノ刑ニ取り二月以上四年以
下ノ禁錮ト為シ但其罰金ヲ十圓減シタル
者ナリ

川去五...
...



